

# 中間公開授業研究会 指導案集

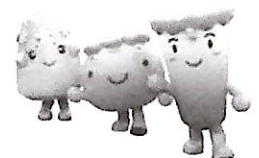
研究主題

「自ら課題をもち、進んで学ぼうとする子どもの育成」  
～かかわり合いを通して学びを深めていく指導を通して～



期日 平成29年11月14日

会場 仙北市立生保内小学校



講演

演題「これからの生活科・総合的な学習の時間～新教育課程上の特質～」

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官

渋谷 一典氏



## □ 日 程

受付	公開授業①	公開授業②	開会行事	授業研究会	講演会	閉会行事
9:00 ～ 9:20	9:30 ～ 10:15	10:35 ～ 11:20	11:40 ～ 12:15	13:05 ～ 14:15	14:30 ～ 16:00	16:00 ～ 16:10

## □ 講 演

演題「これからの生活科・総合的な学習の時間～新教育課程上の特質～」

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官  
 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官  
 渋谷 一典氏

## **2校時 提示授業**

～ 1年・3年・5年～

# 第1学年 生活科学習指導案

指導者 小松 由美子

## 1 単元名

### つくろう あそぼう

## 2 単元の目標

- 身近な秋の自然物や身の回りのものを使って、遊びに使うものをつくったり、みんなで楽しく遊んだりしようとする。
- 自分がつくったおもちゃで楽しく遊んでもらうために、伝えたいことを表現しようとしている。  
【生活への関心・意欲・態度】
- 秋の自然のものや身の回りにあるものを利用して、遊びに使うものを工夫してつくったり、みんなが楽しく遊べるように約束やルールを考えたりしながら、みんなで楽しく遊ぶことができるようにする。  
【活動や体験についての思考・表現】
- 秋の自然のものを利用して遊んだり、遊びに使うものをつくったりすることのおもしろさや、自然の不思議さ、つくったおもちゃで遊ぶことの楽しさに気付くことができるようにする。
- 身近な人々とかかわることで相手の喜びを実感し、人とかかわることの楽しさなど、交流することのよさに気付くことができるようにする。  
【身近な環境や自分についての気付き】

## 3 単元を展開するにあたって

### (1) 児童について（男子10名・女子12名、計22名）

全体的に大変素直な子どもたちで、毎日張り切って生活している。子どもたちは、就学前に園生活の中で豊かな自然にふれ、自然にかかわる活動を多く経験してきた。入学後も休み時間になると屋内よりも屋外に出て楽しく遊ぶことを好む様子が多く見られた。校地内には、中庭だけでなく大きな樹木や遊具がある交通公園があり、虫を捕まえたり、草花で飾りをつくったりして自然とふれ合っている。一方で、活動に夢中になると、なかなか次の学習への切り替えができなくなる子どもがいるため、これまで、学習の終了時刻を伝え、自分たちでタイマーを見ながら学習できるように習慣化を図ってきた。

自然とのかかわりという点では、植物の栽培でアサガオを育てる経験をしている。アサガオのお父さんやお母さんになり、大きく育て花を咲かせるためにはどのようなものが必要で、どのようなお世話をすればよいのかを話し合い、登校後すぐに水やりを行ったり、優しく声をかけたりしながらお世話をしてきた。また、お世話をしながら、「また花が咲いたよ。」「前に比べて花が咲かなくなったよ。」と自然の変化や不思議さに気付くつぶやきも聞かれた。

人とかかわりという点では、これまで上級生にお世話をしてもらいながら学校探検等をしたり、夏にはグループで協力してシャボン玉をつくったりする活動はしてきたが、友だちと話し合っただけで何かをつくり出したり、きまりをつくったりするという活動の経験は不足している。グループでかかわる際に、対話が上手くできず、友だちの意見と折り合いを付けることができない子どもがいるので、共同で学習をする際には、思いを明確にしてから学習を始めさせたい。

また、男子の中に1名、支援が必要な子どもがいる。グループで活動する際、友だちとうまくコミュニケーションがとれない時には、考えを聞きながら、グループの活動がしっかりできるようにさせたい。また、用具の扱いや片付けの際、困っている時には声かけをしながら、できるだけ自分でできるようにさせるが、グループや全体の活動に遅れる場合には、手伝いをする。

## (2) 単元について

本単元は、生活科の内容(6)「身近な自然を利用したり、身近にあるものを使ったりなどして、遊びや遊びに使うものを工夫してつくり、そのおもしろさや自然の不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。」と、(8)「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。」を受けて設定したものである。

子どもたちが秋の自然のものに関心をもってそれらを集めたり、その自然のものを使っておもちゃをつくってみんなで楽しんだりする活動を行う。その中で、子どもたちが進んで調べたり、自分なりの発想で工夫してつくったりする喜びを味わうことができる機会と考える。

単元の流れとしては、「自分でつくって遊ぶ」「友だちと比べながら、さらに楽しく遊べるようにする」「じぶんたちでつくった遊びもので、園児に楽しんでもらう」と活動がステップアップしていくものになる。身の回りにある自然の中で、自分たちが大好きな遊びに使うものをつくるという活動によって、自分の思いや願いを実現し、満足感を得ることや自分らしさを出せる単元でもある。

また、単元の終末においては、これまで何度となく行っているだしのこ園の園児との交流を行うために、「びいすフェスティバル」の開催には、学級全体ではどのような仕事や役割があるのかを学級活動で話し合うことで、「ひととかかわる力」や「社会とかかわる力」を育てることができる単元になることが期待される。

## (3) 指導にあたって

本校の研究主題「『自ら課題をもち、進んで学ぼうとする子どもの育成』～かかわり合いを通して学びを深めていく指導を通して～」を実現するために、本単元では3つの重点について手立てを講じる。

### ① 自分の思いや考えを引き出すために・・・

子どもたちが身近にある自然に繰り返しかかわれるよう、ふれ合う時間をたっぷり保障し、何日かにわたって屋外に出る活動を計画する。そして、子どもたち同士が自然のものを通して、かかわりながら遊んでいる中で、尋ねたり問い返したりしながら、どのような活動をしているのかを見取り、次時の活動へとつなげたい。また、自分の思いや考えを表現する際、うまく文字や絵に表現できない子どもには、内側の声に耳を傾け、共感しながら表出させるようにする。

さらに、自分の思いや考えを実現できるという充足感が必要であると考えるので、子どもたちの活動を見取り、材料や用具の準備、場の設定を児童の実態に合わせて行う。また、用具の安全な使い方を指導するとともに、「つくりながら遊ぶ」という活動を充実させるために、遊ぶスペースを十分に確保したい。

### ② 「話す力」や「聞く力」を育てるために・・・

子どもたちが話す言葉の中で、自分の思いが素直に表れるのが「つぶやき」だと考える。よって、学習時間に限らず、子どもたちの普段の活動の中で、どのようなことを考え、どのようなことを学校でしたいと考えているのか自由な発話に耳を傾けたい。そのためには、自分のつくったおもちゃへに対する愛着がどれくらいあるのかが重要となる。そのおもちゃに対する愛着を、子どもなりの言葉で表出させることが、本校の求める「話す力」へとつながるものと考えられる。

「聞く」ということについても、自分のおもちゃと比べながら聞いたり、分からないところを質問したりさせて、聞いている自分の思いだけでなく、話している友だちの思いを気づきに変えていくようにし、お互いに高め合う心地よさを感じさせたい。

このように、話す側と聞く側が内容にとどまらず、心情も含めて交流を経験していくことで、これらの力が高められると考えている。

③ 「学びを生かそう」とする意欲を高めるために・・・

22人の子どもたちはこれまで「小学校に入って頑張ろう、伸びよう」という気持ちをもって生活してきている。失敗しても前向きに頑張ろうとする姿勢、人に対する思いやりの姿勢など、一人一人の表情やしぐさ、態度といった言葉によらない部分を見逃さないようにしたい。また、それらを見取ることで、次の学びに生かす原動力にしていきたい。自分たちでおもちゃをつくって楽しむ活動については、存分におもちゃ遊びの楽しさを経験させた上で、「びいすフェスティバル」につながるような発問や声かけを工夫したい。この活動によって、今後の園児との交流、来年度の生活科学習にも意識がつながるように子どもたち自身の気持ちを高めさせ、自立の基礎を養うことにつなげたい。

その他に、子どもたちを楽しく学習に向かわせるために次の点に留意したい。

第一に、道具の扱いについては、全体で安全な使い方を学習した上で、作業しやすい場をつくるとともに、繰り返し使うことで安全に使うことができる技能を身に付けさせたい。これは生活科だけでなく、図画工作科でも同様に行きたい。第二に、カード等の使用については、書くことを苦手としている児童が多いため、カードに記入しやすいようにポイントを絞ったものにするるとともに、単で一貫したふり返りカードにすることで書くことに慣れさせたい。また、イラストを利用するなど、抵抗感を減らしたい。第三に、時間を守ったり、後片付けを最後まで行ったり、約束を守ったりすることも繰り返し単元を通して身に付けさせたい。

子どもたちはこれまで、だしのこ園へ「お里がえり」、「夏祭り」、「運動会」と回を重ねて招待されている。入学してから、自分たちが育った場を訪れることで、これまでたくさんの愛情をもって育てられたことを知り、学校生活への意欲も向上している。また、園児が学校を訪れることで、いつもは一番下の自分たちが、兄さんや姉さんになり、何かを教えたり、お手本を示したりする機会が与えられる。そのことで、自分たちより下の年齢の子どもたちに優しく接することができるようになり、かかわる楽しさや喜びを感じることができると思う。

「びいすフェスティバル」が、子どもたちにとって大きな達成感や成就感につながる活動になり、今後の交流の動機付けになるようにしたい。

4 指導計画  
(1) 評価規準

ア 生活への関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての思考・表現	ウ 身近な環境や自分についての気付き
<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な自然物を使って、遊びに使うものをつくりたり、遊んだりすることに関心をもち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。</li> <li>自分たちがつくったおもちゃで楽しくあそんでもらうために、伝えたいことを表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然物や身の回りにあるものを利用して、遊びに使うものを工夫してつくりたり、みんなが楽しく遊べるように、約束やルールを考えたりしながら、みんなで楽しく遊んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然物を利用して遊んだり、遊びに使うものをつくりたりすることのおもしろさや、自然の不思議さ、秋の自然物を使ってみんなで遊ぶことの楽しさに気付いている。</li> <li>身近な人々とかかわることで相手の喜びを実感し、人とかかわることの楽しさなど、交流することのよさに気付いている。</li> </ul>

(2) 単元の全体計画 (1 1時間扱い)

小単元	ねらい	主な学習活動	主な支援	評価規準と評価方法			努力を要する子への支援	
				生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き		
おもちゃをつくらう 【5時間】	<ul style="list-style-type: none"> <li>校庭や家の回りで集めた葉や木の実、身の周りの材料を使って、おもちゃや楽器を工夫してつくり、自分でおもちゃをつくり出す面白さや、自然の不思議さに気付くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校庭や家で集めてきた葉や木の実、身の回りから集めた材料を使ってどんな遊びやおもちゃができるかイメージをもつ。(1時間)</li> <li>秋の自然物を使って自由に遊んだり、おもちゃや楽器をつくりたりする。(2時間)</li> <li>自分がつくったおもちゃや楽器を紹介し合い、改良したり、つくるおもちゃを変えたりしながら遊ぶ。(2時間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前単元の「たのしいあきいっぱい」と関連させ、葉や木の実などの、自分たちで集めた自然物でつくりたり、遊んだりする活動の意欲を高める。</li> <li>教科書についている「おもちゃずかん」を参考にして、自分がつくるおもちゃへのイメージをもたせる。</li> <li>試し遊びを繰り返して、自分のおもちゃを改良し、遊びに使うものを工夫してつくることのおもしろさを実感できるようにする。</li> <li>つくったおもちゃを友達と比べる場を設定し、互いのおもちゃの共通点と相違点に着目し、自分のおもちゃを改良する視点をもてるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちで集めた葉や木の実に関心をもち、それらの特徴を生かしたおもちゃや楽器のイメージをもち、つくらうとしている。(行動・発言)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集めた自然物の中から、使ってみたいものを選び、試したり、見立てたりして工夫しながらおもちゃをつくらう。(行動)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の工夫したところを友達に話したり、友達から聞いた工夫を自分のおもちゃや楽器に試して、改良している。(行動・会話・振り返りカード)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おもちゃの動きの面白さや不思議さ、遊ぶ楽しさなどに気付いている。(行動・発言・振り返りカード)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おもちゃのつくり方にとまどっている子どもには、担任がつくったおもちゃを見せて材料や遊び方を確かめる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>つくったおもちゃで友だちと一緒に遊びながら、もっと楽しく遊べるように、おもちゃや遊び方を工夫することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとに試し遊びをしながら、おもちゃなどを改良する。(2時間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの友達と、繰り返し試し遊びをしながら、つくり直しをするように言葉かけをする。</li> <li>おもちゃを改良するコーナーを設定し、安全面に配慮する。</li> <li>改良したおもちゃのセールスポイント(自分のおもちゃのこだわった所、おすすめめ所)をしっかりと意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>試し遊びをしながら、もっと楽しく遊べるようにおもちゃを改良したり、遊び方を工夫したりしている。(行動・会話・振り返りカード)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びのルールや約束を工夫することや友達のおもちゃや楽器には、自分のものとは違うよさがあることに気付いている。(行動・発言・振り返りカード)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おもちゃの改良や遊び方の工夫が思いつかない子どもには、友だちのおもちゃで遊んだ時の様子を思い出させたり、同じグループの友だちのおもちゃを見たり遊んだりさせる。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちがつくったおもちゃをさらに工夫したり、約束やルールを考えたりして「秋のおもちゃ会」を開き、園児と一緒に楽しむことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会が楽しくなるように、約束やルールなどを考え、遊び方についての工夫を話し合う。(1時間)【本時】</li> <li>工夫したルールや遊び方で、試し遊びをする。(1時間)</li> <li>園児を「秋のおもちゃで一緒に楽しむ会」に招待し、楽しんでもらう。(1時間)</li> <li>「みんなであそぼう」の活動を振り返り、楽しかったことや気付いたこと、できるようにしたこと、できるようになったことを家族に伝える作文を書く。(1時間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園児が楽しむことができるようにという観点を焦点化し、意識できるように導入で確認をする。</li> <li>園児のどのような様子を見ることができれば、楽しんでもらえたこととなるのかを会の実施前に確認をする。</li> <li>前もって、自分たちのおもちゃのアピールポイントを園児に伝え、会の後に感想を簡単イラストで答えてもらい、今後の活動に生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園児に楽しんでもらおうと、準備をしている。(行動)</li> <li>楽しく遊んでもらうために、伝えたいことを表現しようとしている。(行動)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会が楽しくなるように、約束やルールなどを考え、遊び方を工夫している。(行動・会話・振り返りカード)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の伝えたいことが相手に伝わる楽しさや交流することのよさに気付いている。(作文)</li> </ul>		

5 本時の実際（8 / 11 時間）

(1) ねらい

あきのおもちゃで一緒に楽しむ会が楽しくなるように、約束やルールなどを考え、遊び方を工夫している。

(2) 学習の展開

段階	学 習 活 動	予想される 子どもの姿	形 態	○教師の支援 ●つまづいている子への手立て ☆評価(方法)【観点】
つ か む	1 前時の活動をふり返り、本時の活動を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年長さんを早く招待したいな。</li> <li>・工夫を試してもらうとどうなるかな。</li> </ul>	全 体	○本時までにはグループの考えをもたせ、活動にすぐに入ることができるようにする。
<p>ねんちょうさんに、おもちゃをたのしんでもらうくふうをためしてみよう。</p>				
さ ぐ る	<p>2 ペアのグループに年長児に楽しんでもらうように考えた工夫を伝え、試し遊びをする。</p> <p>○試した感想を相手グループに伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを少し簡単にしました。</li> <li>・遊びの回数を多くしました。</li> <li>・賞をあげたらよろこぶと思います。</li> <li>・お手本をやってみることにしました。</li> <li>・上手にできた時ほめてあげようと思います。</li> <li>・優しいことばづかいがよかったです。</li> <li>・お手本が分かりやすい。</li> <li>・ルールが分かりやすい。</li> </ul>	グ ル ー プ       グ ル ー プ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ペアのお店を設定し、一方がお客様になり、工夫にふれさせる。</li> <li>○工夫の観点をもとに、ペアのお店の工夫を評価させる。</li> <li>○自分たちとの工夫の違いにも気付かせる。そのためには、なぜ、その工夫をするのか理由も聞く。</li> <li>●活動の意図からずれている子どもには、自分が園児だったらということのを再認識させる。</li> </ul>



	○2と3の活動を役割を交代して行う。		グループ	○3の活動で他のグループのよさに気づき、試す活動にすぐに取り入れてもよいことを伝える。
ふかめる	3 相手グループからアドバイスをもらって、改良点を話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やってもらったから、あまりうまくいかなかったね。どうしてだろう。</li> <li>・相手グループのよいアイデアをもらおう。</li> </ul>	グループ	<p>○友だちからのアドバイスを、自分たちの考えに生かすことができたかを押さえさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>☆年長さんが楽しむことができる約束やルールについて友だちのアドバイスをもとに、遊び方の工夫を考えている。(会話・つぶやき・メモ)</p> <p style="text-align: right;">【思考・表現】</p> </div>
ふりかえる	4 学習カードに本時の感想を書く。		個	○ペアのグループにほめられたことや、うれしかったこと、アドバイスを出してくれた子どもにもふれさせる。
	5 次時の活動のイメージをつかむ。		全体	○次時は本時に話し合ったものをつくったり、試したりする時間になることを、子どもたちに意識付ける。

### (3) 本時の視点

#### ①子どもが思いや願いをもってかかわるために

自分や自分たちの思いが、グループ内やグループ同士のやりとりをすることで、行動への意欲に結び付いているか。

#### ②子どもが考えを深め、表現するために

ペアグループで試し遊びをすることが、遊び方の工夫を考える上で効果があったか。

# 第3学年 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 千葉 徳子

## 1 単元名

### すてき発見 田沢湖 パート2

## 2 単元の目標と育てたい力

自分の住んでいる町のすてきな人、場所、物を、自分たちで実際に訪ねて調べる活動を通して、課題を解決するための知識や技能を身に付けるとともに、田沢湖地区のよいところへの考えや思いを深めようとする態度を育てる。

### 【課題設定力】

- 生活や体験を通して気付いたことや疑問に思ったことをもとに、調べてみたいことを見つけ、課題を設定する。

### 【課題探究力】

- 課題解決の見通しをもち、学習計画を立てる。
- 調べたいことに合わせて情報収集する。
- 集まった情報を整理し、まとめる。

### 【表現・伝達能力】

- 調べたこと、学んだこと、自分の思いや考えを表現する方法を工夫し、まとめたり、伝えたりする。

### 【自己形成力】

- 調べて分かったことを、自分の生活や行動に生かそうとする。
- 自分と地域のつながりに気付き、地域を大切にしようとする思いをもつ。

### 【学び合う力】

- 相手の立場や気持ちを考え、班で協力して課題を解決する。
- 自分や友だちのよい考えに気付き、ともに伸びようとする。
- 体験活動や、訪問先でかかわる人たちに素直にかかわり、話を聞く。

## 3 単元を展開するにあたって

### (1) 児童について (男子22名・女子14名、計36名)

明るく活動的で、学校生活における様々な活動に感心をもち、張り切って取り組もうとする子どもたちである。素直に自分の思いを話したり、かかわろうとしたりする子どもが多い反面、自己主張が強い子どももおり、しっかり話を聞けなかったり、互いの考えをよく理解できなかったりすることによるトラブルも多い。総合的な学習の時間は、特別支援学級の子ども2名も支援を受けながら一緒に学習している。

「すてき発見田沢湖パート1」の学習では、まず自分の家の周りの自慢について紹介し合った。3年生の子どもたちは、まだまだ自分で行動できる範囲が狭く、仙北市のどこまでが田沢湖地区なのか分からない子どもも多い。また、地元の祭りや施設、特産物についての知識に関しても個人差が大きい。そこで、社会科の市の様子の学習では、市内の3つの地区の地形や町の特徴の違いを通して、田沢湖地区のよさに気付かせるため、それぞれの地区の様子を比較しながらの仙北市のフィールドワークを行った。角館地区では歴史案内人に案内してもらうことで、歴史と文化のまちであり、町民はおもてなしの気持ちで自主的に掃除をしていること、西木地区では特産物のほうれん草を生かしたソフトクリームを試食し、開発にかかわったむらっこ物産館の方から話を聞くことで、地元の自然の恵みを生かし食の文化を大事にしている地域だということ学んだ。また、田沢湖地区では高原から地区の様子を眺めることで、自分たちが高地に住んでいることを確認し、スキー場、宿泊施設が多いことも分かった。仙北市の他の地区にはない高原や田沢湖があることを改めて認識し、田沢湖地区に誇りをもつきっかけの一つとなっている。フィールドワークで体験したことへの感心は高く、休日や夏休みを利用し、探検先を再度訪問した子どもも多い。

今年度は、総合的な学習の時間がスタートしたばかりであり、家の人に聞いたり、図書室の本で調べたりすることを中心に課題を追究し、生き物や湖などについてシートにまとめてきた。観光地で生まれ育った子どもらしく、日本一深い田沢湖、幻のクニマス、秋田米のブランド「こまち」、イヌワシなどの宣伝のキーワードをよく知っている。しかし、これらについて実感を伴って語れる子どもは少ない。

## (2) 単元について

本単元は、総合的な学習の時間がスタートした前期の「すてき発見田沢湖パート1」の学習を受け、地元田沢湖地区のすてきなところを深く探っていく単元である。山菜や田沢湖、クニマスのことについて家の人に聞いたり、図書室の本で調べたりしたことを生かして、さらに学びを深めていく。

導入では、子どもたちに親しみのある仙北市の田沢湖高原温泉郷のキャラクター「オモテナシ3兄弟」との出会いを設定する。今までよりも具体的な田沢湖地区の「すてき情報」を調べ、3兄弟に伝えることで、おもてなしに役立ててもらうため、グループごとに確かめたいことや、もっと知りたいことを考える。これまではインタビューや本で調べたことが中心だったが、実際に子どもたち主体で探検を計画し訪問する活動を設定することで、ふるさとのよさを体感し、生き生きと自分の言葉で伝えられるようになると期待している。

探検の計画を立てる活動では「すてき情報」を確かめることができる訪問先を決め、現地までの交通手段や時間、料金について施設や路線バス会社に電話で質問したり、観光案内所の資料を利用したりしながら進めていく。具体的な活動としては、クニマス資料館の見学、温泉入浴、自然散策などが考えられる。体験後は、訪問先で発見した魅力を出し合い、分類していく。自分たちが調べた田沢湖地区の「すてき」を調査結果としてまとめ、オモテナシ3兄弟に報告することで達成感を味わわせたい。終末には、これまでの活動を振り返り、ふるさとのよいところを今後の生活に生かしていくことを考えている。

## (3) 指導にあたって

本校の研究主題『自ら課題をもち、進んで学ぼうとする子どもの育成』～かかわり合いを通して学びを深めていく指導を通して～を実現するために、本単元では3つの重点について次の手立てを講じる。

### ①自分の思いや考えを引き出すために

体験活動や調査活動を行う機会を設定することで、地域の人やものにふれ、調べる、話し合うなどの活動を繰り返すことで自分の思いや考えを引き出す。

### ②「話す力」や「聞く力」を育てるために

調べたり考えたりしたことを話し合う活動では、視点を明確にしたシート、カードの構成を工夫する。また、子どもたちの主体的な調査活動を取り入れることで、訪問先でのインタビューや、子ども同士のアドバイスによっても学び合う力が育っていくと考える。

### ③学びを生かそうとする意欲を育てるために

これまでの活動の取り組みを掲示し、課題探究の資料として活用できるようにする。また、インタビューを行う際には、国語科、社会科など他教科での学びを生かせるよう支援していく。

単元の課題を設定する際には、「すてき発見 田沢湖パート1」での活動を振り返り、ふるさとのよいところは見つけたが、本やインターネットだけでは分からない情報があったことにふれ、「実際に体験したら、自分はどのように感じるだろう。」「それに携わる人の思いを聞きたい。」という課題意識をもたせたい。

課題解決のための活動として、「すてき発見 田沢湖パート1」で調べたことをもとに、現地に行って自分たちで実際に調べる活動を取り入れる。保護者アンケートから、外出する際は、いつも親の車を利用しているため、ほとんどの家庭が地元の公共交通機関を利用したまたは、させたことがないということが分かった。今回はそのような実態も踏まえ、家庭にも協力を呼びかけ、路線バスを利用した子どもたち主体のフィールドワークを取り入れる。主体的に計画を立て、公共交通機関に乗って行くことで、期待とともに緊張感をもって訪問できるようにする。探検当日は、同時に各方面へ訪問となるため、応援団等の引率協力者に安全のための協力を仰ぐ。ここでの生小応援団の方々とのふれ合いも、情報収集や地域の方のふるさとへの思いに気付くことにつながっていくと思われる。子どもたちの心が大きく育っていく中学年の時期に、期待感をもってふるさとを訪問し、地元のよさを生かして働く人とふれ合うことによって、これからの自分を見つめ、ふるさとのために自分ができることを考えていけるようになってほしい。

#### 4 単元の評価規準

学習方法に関すること			自分自身に関すること	他者や社会とのかわりに関すること
【課題設定力】	【課題探究力】	【表現・伝達能力】	【自己形成力】	【学び合う力】
<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項や生活体験を生かし課題を設定している。</li> <li>友だちやゲストティーチャーとのかわりから新たな課題を見付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な方法で収集した情報から必要な物を選んだり、組み合わせたりしている。</li> <li>活動を振り返り成果と課題から今後のふりかき方方を考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問先でかかわった人たちの思いや体験して学んだことをまとめている。</li> <li>発信方法について具体的に考え表現方法を工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な情報を意欲的に探したり、これまでの取り組みの努力に気付いたりしている。</li> <li>これまでの成果と課題をふり返り今後の生活に生かそうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報収集に必要なスキルやマナーを身に付けている。</li> <li>他のグループの発表を聞き話し合っ互評価をしている。</li> <li>進んで調べる活動を通して、人とかかわる喜びや難しさを実感したりしている。</li> </ul>

5 指導計画 (24時間扱い)

	ねらい	主な学習活動	教師の支援	育てたい力の評価規準 (評価方法)					努力を要する子への支援
				課題設定力	課題探究力	表現・伝達能力	自己形成力	学び合う力	
課題を見つつけよう③	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの活動を生かして、課題を設定することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すてき発見①での活動を振り返ったり夏休みの自由研究を紹介したりしながら、すてき発見②の課題を作る。(2時間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オモテナシ3兄弟から、田沢湖地区のすてきを調査する依頼を受けるという出会いの場を設定し意欲付けをする。</li> <li>体験活動を取り入れて自分で確かめていくことを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習学習を生かし、課題について考えている。(発言・シート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちが調べてきたことから自分の課題のヒントを得てる。(発言・シート)</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の活動を想起させる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで活動の計画を立てることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習計画を立てる。(1時間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の興味・関心をもとに田沢湖地区での調査計画を立てる。</li> <li>訪問先を決める際は、これまでに利用したパンフレットを提示する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>学習計画について考えている。(発言・シート)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決に合った訪問先を話し合っている。(発言)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の進め方、流れを示す。</li> </ul>
もっと知りたい・確かめたい⑩	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報収集に必要なスキルを身に付けることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問先や情報提供してくれる方々に協力を依頼する。(1時間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に訪問先へ探検の趣旨と体験活動の内容を伝え協力を依頼する。</li> <li>子どもたちに電話で依頼させるためナーを指導する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>情報収集に必要なマナーやスキルを身につけている。(行動観察)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容を伝え依頼している。(行動観察)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>話型シートを準備する。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちが必要な情報を収集し活動に生かすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとに探検計画を立て、訪問先までの交通手段を調べる。(3時間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>しっかり聞き自分の考えと比べさせるため、質問と答えの予想ももたせる。聞き方、話し方のモデル学習も行う。</li> <li>主体的に調べさせるためバス路線表、時刻表などの資料を準備する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>調べたいことに対する答えを予想しシートに書いている。(シート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な情報を選んでいる。(行動観察・シート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループでの役割やマナー、訪ね方について互いに確認している。(行動観察)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>質問に対する予想できるようなヒントを出す。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>応援団と進んでかわり、探検計画の確認ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとに生小応援団の方と探検計画の確認をし協力を依頼する。(1時間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経路、準備、安全面などで心配なことを応援団の方と一緒に確認することで安心感をもたせる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>活動計画を応援隊と確認している。(発言・シート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>応援隊と進んでかわり活動している。(行動観察)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>心配なことを聞き取り、必要に応じて準備する。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人に積極的にかわり課題追究のための活動ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的の場所を訪ね、調査・体験活動をする。(5時間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループの担当と適宜連絡を取りつつ進行状況をつかむ。</li> <li>次時の分類のヒントになるよう5つの視点を探検シートに記入しておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な情報を収集している。(発言・シート)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問先の人にかかわり課題解決しようとしている。(行動観察)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心できるよう探検中はペアで行動させる。</li> </ul>	
まとめよう・伝えよう⑨	<ul style="list-style-type: none"> <li>発見カードを書き視点をそって整理することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発見カードを書き、グループごとに体験活動を通して分かったこと気付いたことを出し合う。(3時間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験を思い出し、話し合いを深める手立てとして探検での写真を用意する。</li> <li>五感を意識できるまとめを工夫し、発見したことを出し合い整理させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験活動の成果と課題を考えている。(発言・カード)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>探検で発見したことをカードに書いている。(カード)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>同じ班の友だちの意見を参考にさせる。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの発表を聞きよかった点に気付くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲示した発見カードから、互いのグループのよい点を見つける。(1時間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの発見カードを掲示し、自由に見る場を設定し、他のグループの記入でよかった点を付箋に記入させる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>他のグループの発表を聞き相互評価している。(付箋)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一緒に友だちのカードを読みながら見つける。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝えたいことを決めて、その理由を伝え合うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いをもとに、伝えたいことを決め、理由を考え、伝え合う。(1時間)【本時】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>五感を使った5つの視点から探検先の特徴に気付かせていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表することを選び理由を書いている。(発言・シート)</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>国語の言葉のたから箱を掲示しヒントとする。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問先の魅力を効果的に伝える工夫を取り入れまとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>さらに内容を工夫し報告会に向けてまとめをする。(2時間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>よりよい発表になるよう、前時の意見を生かし改善、追加できるように視点を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>さらに工夫できる点を見い出している。(シート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉に加えた表現方法を入れ工夫している。(行動)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>よりよい発表に向けて話し合っている。(発言・行動観察)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的に練習できるように役割を与える。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの発表のよい点に気づくことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間報告会し、必要に応じて手直しをする。(1時間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発見したすてきが伝わるかについて感想を交換しながら聞き合うことで、次時の報告会に向けて自信をもたせる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>相手を意識してすてきを伝えようとしている。(発表)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの努力に気付いている。(シート)</li> </ul>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手を意識し、しっかり伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オモテナシ3兄弟へ報告会を行う。(1時間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オモテナシ3兄弟から、子どもたちの活動を称揚するメッセージをもらうことで達成感を味わわせる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>達成感を感じシートに書いている。(シート)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>相手を意識して伝えるよう声かけをする。</li> </ul>	
ふりかえろう⑪	<ul style="list-style-type: none"> <li>お世話に人たちに感謝し、今後のふるさとへのかわり方を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問先に感謝の気持ちを伝え、自分の地域へかわり方を考える。(1時間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動にかかわった人たちへの感謝の気持ちと活動への満足感をもたせるとともに、冬期の田沢湖地区の魅力への関心につなげていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成果と課題を踏まえて、今後のふるさとへのかわり方を考えている。(発言・シート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べて学んだことを、これからの生活に生かそうとしている。(発言・シート)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの活動を一緒に振り返る。</li> </ul>		

3-4

6 本時の実際（18/24時間）

(1) ねらい

伝えたい「すてき」を決めて、そのわけを互いに伝え合うことができる。

(2) 学習の展開

段階	学 習 活 動	予想される子どもの姿	形態	○教師の支援 ●つまづいている子への手立て ☆評価（方法）【観点】
導 入	1 前時の学習を振り返り 本時のめあてを確認する。	・探検して地元のいいところがよく分かった。 ・体でたくさん「すてき」を感じた。	全体	○前時に大まかに整理した各グループのシートを並べて掲示する。 ○学習の見通しがもてるように、これまでの活動を振り返る。
	2 前時に大まかに整理したものを、五感を使った5つの視点から見直し、気付いたことを話し合う。	・紅葉した葉は「目」の仲間だね。 ・湖の水の冷たさは「手」かな？ ・5つの仲間に分けられないものがあるね。	全体	○五感を用いた5つの視点を提示し、探検先の特徴を再度まとめさせる。 ○整理した発見カードの結果を比べ、分布のバランスやカードの枚数から、調べた結果の特徴に目を向けられるようにする。
いちばん伝えたい「すてき」をえらんで、そのわけを発表しよう。				
展 開	3 グループごとに共通するキーワードを見つけ、いちばん伝えたい「すてき」を決める。  ①キーワードを出し合う。 ②シートに自分の考えを書く。 ③シートをもとに伝え合い、グループで一つに決める。	・イヌワシは大きいし、ナイブみたいなくちばしだから「かっこいい」かな。それとも「強い」かな。 ・鶴ノ湯の温泉は色がきれいだけど、紅葉や昔の建物もよかったね。 ・田沢湖は景色もいいし、水の色もあったし、クニマスも有名だし…どれもしようかな。	グ ル ー プ	○他のグループの「いいね」カードも参考に にする。 ○基本となる型を示し、「すてき」を見つけた り、その理由を考えるようにする。 ○五感ごとの仲間分けからキーワードを見 つけるだけでなく、仲間分けをまたいだり、 組み合わせたりするのもよいこととする。  ☆いちばん伝えたい「すてき」を選び、 その理由とともにシートに書き、互い に伝え合っている。  (シート・発言)【課題探究力】
	4 グループごとに発表する。	・伝えたいイヌワシのすてきは「かっこいい」です。わけは大きさやくちばしの形を見たら驚くと思うからです。 ・伝えたい鶴ノ湯のすてきは「いいお湯」です。わけは色や温かさなど良いところがたくさんあるからです。	全体	○各グループの気付きが深まっていくように、発表を全体で共感的に受け止めるような雰囲気をつくる。
ま と め	5 本時の振り返りをして次時への見通しをもつ。	・「すてき」がたくさんあったけど、一つに決められてよかった。 ・決めた「すてき」をどうやって伝えようかな？	個 ↓ 全体	○活動の意欲が高まるように、子どもたちの頑張りを称賛する。 ○次時はオモテナシ3兄弟に伝えるための発表の準備を確認する。

(3) 本時の視点

①子どもが主体的にかかわるために

グループごとの共通体験をもとに、目、耳、口などの視点にそって話し合いながら、分類を進めたことは、子どもが主体的にかかわるために有効であったか。

②子どもが考えを深め、表現するために

体験を通じた知識をもとに、訪問先の「すてき」について、調べたものの特徴を伝えたい理由を話し合わせたことは、考えを深めることに有効であったか。

## 第5学年 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 T f 藤峰 芳子  
T k 小松 大貴

### 1 単元名

ふるさとの山 駒ヶ岳 ～自然災害から学ぼう～

### 2 単元の目標と育てたい力

自分たちの地域の自然を見直し、見つけた課題を調べることを通して、課題を解決するための知識や技能を身に付けるとともに、防災のために自分たちができることを考え、積極的に働きかける態度を育てる。

#### 【課題設定力】

- 生活や体験を通して気付いたことや疑問に思ったことをもとに、調べてみたいことを見付け、課題を設定する。

#### 【課題探究力】

- 課題解決の見通しをもち、学習計画を立てる。
- 対象や目的に合わせて情報収集をし、集めた情報を比較したり関連付けたりしながら考える。

#### 【表現・伝達能力】

- 伝えたい相手を意識し、分かったことをもとに防災マップを作成したり、表現方法を工夫して新聞にまとめたりする。

#### 【自己形成力】

- 学んだことを自分の生活や行動と結び付けて生かそうとする。

#### 【学び合う力】

- 相手の意見を聞き、情報を整理して他者と協力して課題を解決する。
- 体験や活動対象に積極的にかかわり、自分のものの見方や考え方を深める。

### 3 活動を展開するにあたって

#### (1) 児童について (男子21名・女子26名、計47名)

課題によってグループで活動したり、クラスの枠を越えて体験活動をしたりする学習に前向きな子どもが多く、めあてに向かって協力的に活動しようとする子どもたちである。特別に支援を要する男子が1名いるが、グループで誘い合ったり、その子どもに合った活動を提示したりしながら、グループでの調べ学習に参加している。

4年生では「ふるさとの自然を見つめて」という課題のもと、「ふるさとのよさを発信しよう」というテーマで学習を展開してきた。秋田駅前でも初対面の人を相手にふるさとのよさをアピールすることはとても勇気のいることではあった。しかし、そこに至るまでの調べ学習や互いの発表を聞き合う学習の中から、新しい課題を見付けようとする意識は高まってきた。仲間と協力して思いを伝えることの大切さを知り、人とのふれ合いとともに達成感を味わうことができた。5年生になって、地域の農作物について社会科と関連した稲作りについて、田植え、稲の観察、稲刈りの体験をした。刈り取った稲は「ひびき米」と名付けて給食の献立を「ひびき米カレーライス」として、全校生徒にも味わってもらおう予定である。

ふるさとについて考えた時、子どもたちは「駒ヶ岳と田沢湖」という壮大な自然に恵まれていることを認識している。しかし、「自然豊かなまちのよさ」と同時に近年増えてきた大雨や洪水、時折耳にする火山性の地震に対して、「ふるさとはこのままでいいのだろうか。」「危険と隣り合わせなのに、なぜ人々はこのまちに住み続けるのだろうか。」「自分たちがこれからも安全な暮らしをするには何をしたらよいか。」というような考え方で、自然災害に目を向けた学習は未経験である。

#### (2) 単元について

これまでに学んできたふるさとのよさ、自慢できるわたしたちのまち。このまちの自然環境に目を移すと、今まで気付かなかった新しい課題に出会うのではないだろうか。本校は、周囲を山に囲まれ豊かな自然に恵まれている。今から3年前、供養物地区で発生した土砂災害では、親戚の人が被害に遭った子どももいる。過去の災害を調べてみたり、現在の駒ヶ岳の火山性微動を考えたりすることを通して、果たして何の心構えもなく安全な暮らしを続けていけるのか、改めて考え直すことができるものと思われる。

5年生になり、春、市の事業で参加した秋田駒ヶ岳砂防探検隊では、駒ヶ岳の噴火実験、生保内川の砂防ダム、供養物地区の土砂災害跡地などの見学を通して、身近なところで自然災害が起こっていた事実気付くことができた。

本単元では、自分たちの身近なところでも、いつ起こるかわからない災害に備え、危険箇所を知るとともに自分たちの住んでいるところから安全に避難できる場所や方法を確認させるよい機会と考える。災害におびえるだけでなく、正しい知識を身に付け、危機感をもって自らが適切に行動できることが望ましいと考える。そうすることで、家族とどのような約束がなされているかを確認し、近くの町内の避難場所の確認や避難方法についても日頃からどんな取り組みがなされているかを見つめ直す機会にもなると思う。また、地域の防災マップを作成することで、机上のプランではなく、減災の意識をもって実際に備えた行動がとれるように意識を高めていきたい。自分で調べたことを友達と共有しながら、作成した防災マップを校内の友達に

紹介したり、地域に発信したりして広がりのある学習活動につなげていきたい。

そして、この学習を通して自然豊かなまちに住むということは、見方を変えれば災害の危険と隣り合わせであるという事実気付くとともに、過去の災害から復興し、人々がこのまちに住み続ける思いについても考えさせたい。

**(3) 指導にあたって**

本校の研究主題『自ら課題をもち、進んで学ぼうとする子どもの育成』～かかわり合いを通して学びを深めていく指導を通して～」を実現するために、本単元では3つの重点について次の手立てを講じる。

**①自分の思いや考えを引き出すために**

思いや考えを引き出すためには、地域のことをどれだけ知っているか、興味をもっているかということが重要になってくる。そのために、今まで学習したふるさとに対する思いを想起させるとともに、課題に対する興味関心を広げるために、地域に出かけて積極的にかかわり、調査やインタビュー活動をすることで、災害についての知識や減災についての思いを引き出すことができるようにする。

**②「話す力」や「聞く力」を育てるために**

調べたり考えたりしたことや課題について、友達と話し合う場を大切にし、その中で聞き方の視点を明確にしたり、付箋の工夫をしたりして個々の力が育つようにする。

**③「学びを生かそう」とする意識を高めるために**

これまでの学習の足跡を掲示し、振り返りや課題追究の資料として活用できるようにしておく。また、アンケートや調査内容の分析をする際には、算数、国語、社会などの他教科で培った力を工夫して取り入れられるように助言していく。

その他として、単元の課題を設定する際には、昨年の学習経験を振り返ったり、仙北市の観光資源について調べたりしたことを生かしていく。「豊かな自然を生かした生活」しかし、「豊かな自然の裏に潜むもの・・・」それはどんなことなのか。砂防探検隊に参加した経験を想起させることで、ふるさとの自然環境についての課題意識をもたせたい。課題解決に向けて立てる学習計画を随時見直していくことで課題を深く探究する力を付けさせたい。

調べ活動では、インターネットや本で調べるだけでなく、ゲストティーチャーの話の聞いたり、バーチャル体験をしたりするという学習活動を取り入れたい。体験的な活動に際して、生小応援団、仙北市役所、国土交通省秋田駒ヶ岳砂防出張所などの協力を仰ぎ、活動の支援をしていく。

本時では、課題別グループから地域別グループに編成して学習を展開する。一人一人が課題別グループで調べてきた情報を持ち寄り、紹介したり共有したりしながら、地図に印や色を付けながら防災マップを作成する。そうすることで、「自分の住んでいる土地はどんな状況にあるのか。」がわかり、土地の様子や地域の安全対策について視覚的にもはっきりしてくるはずである。さらに「災害に備えて、家族と避難する方法や連絡を取る方法を考えているか。」「自分たちにできることは何か。」という視点に立った方向性を導き出し、「自分たちのふるさとが安全な場所であるために、自分たちにできることは何か。」という新たな課題に向けて、減災意識を高めさせたい。

**4 単元の評価規準**

学習方法に関すること			自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
【課題設定力】	【課題探究力】	【表現・伝達能力】	【自己形成力】	【学び合う力】
<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項や生活体験を生かして課題を設定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習計画を考えたり、必要な情報を選んだりしている。</li> <li>調べる方法について考え、意見を出している。</li> <li>活動を振り返り、成果と課題から今後の自分たちにできる防災について考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝える相手を意識して、マップを作ったり掲示用新聞にまとめたりしている。</li> <li>調査内容を具体的にまとめ相手に分かりやすく伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な情報を意欲的に探したり、これまでの取組の努力や災害の歴史に気付いたりしている。</li> <li>達成感を感じて自己評価したり、学んできたことを今後の生活に生かそうとしたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と協力して課題解決に向けて調べたり話し合ったりしている。</li> <li>他グループのよさや改善点に気付いたり、改善策を話し合ったりしている。</li> <li>進んで調査活動をし、人とかかわる喜びや難しさを実感したりしている。</li> </ul>



5 指導計画（20時間扱い）

	ねらい	主な学習活動	教師の支援	育てたい力の評価規準（評価方法）					努力を要する子への支援
				課題設定力	課題探究力	表現・伝達能力	自己形成力	学び合う力	
課題を見つつけよう③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年の活動を想起しふるさとのよさに気付くことができる。</li> <li>・ 課題として適切な事柄を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年の活動を振り返り、ふるさとのよさに気付くことができる。</li> <li>・ 過去の災害・近年の災害について知る。</li> <li>・ 学習課題を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題意識を高めるように、砂防探検隊の経験を想起させる。</li> <li>・ 仙北市生保内の地図がいつでも見られるように準備する。</li> <li>・ 災害の実際を感じ取られるように、DVDの視聴をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習事項を生かし、課題について考えている。（発言・シート）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を解決するための計画を立てている。（発言・シート）</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の進め方を示す。</li> <li>・ 昨年の例を示す。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題選択することができる。</li> <li>・ 課題解決のための計画を立てることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じ課題の人同士でグループになり学習計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題解決を実現するための計画を立てられるように、計画表の見本を示す。</li> <li>・ 後で類型化しやすいように、思い付いたものはどんどん付箋に書かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どんな事柄を調べたらよいかを考えている。（観察・シート）</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達とともに課題解決に向けて調べ活動をしている。（観察）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分かりやすい情報を示す。</li> </ul>	
課題を追究しよう⑩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題追究する方法を考えることができる。</li> <li>・ 情報収集の方法を考えることができる。</li> <li>・ 自分なりの疑問点を意識して調べることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題について調べる。</li> <li>・ インタビューをする。</li> <li>・ 見学に行く。</li> <li>・ 体験談を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題に迫るために、どのような資料が必要なのか考えさせる。</li> <li>・ 情報を収集するにはどのような方法があるのかを考えさせる。</li> <li>・ 調べる視点がはっきりするように学習シートを工夫する。</li> <li>・ なぜそうなったのか、避難の様子はどうかであったか、その時の防災意識はどうかであったかという視点で話を聞くようにする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要な事柄とそうでないものを選び出しまとめようとしている。（付箋・シート）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要な情報を意欲的に探している。（観察・シート）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前に出た友達の意見に参考にする。</li> <li>・ 同一課題の友達とともに行動する様に声かけをする。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調べた事柄を紹介しながら防災マップを作ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域別の地図に印を付け、自分たちの分かりやすい防災マップを作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題別で調べたことの中から、必要な情報を紹介させる。</li> <li>・ 限られた時間の中で作業できるように、材料を準備する。</li> <li>・ 自分の住んでいる地域の土地の様子や危険箇所についてヒントコーナーを設ける。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調べたことをもとに、地図に記入している。（マップ作成）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の情報を共有し、他グループの調べ方のよさや疑問点に気付いている。（シート）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じグループの児童を参考にさせる。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マップを作って分かったことを発表できる。</li> <li>・ 伝える方法を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災マップ作りの体験から分かったことや気付いたことを発表する。</li> <li>・ できたマップを全校の友達や地域の人に紹介する方法について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 完成したマップを掲示し、作成後の思いが共有できるようにする。</li> <li>・ いつでも見られるようにするには、どのようにしたらよいかを考えさせる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 類型化しながら必要な事柄を選び出している。（発言・シート）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでのアドバイスを想起させる。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害の起こり方や兆候についてまとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの学習を通して、気付いたことやわかったことなどをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体化した方法を実践することができるように、場の設定をする。</li> <li>・ 他のグループの発表を聞いて大切なお知らせ、参考になったことなどを付箋で表す。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話を聞いたり、見学をしたりしたことを生かしている。（新聞のまとめの様子）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの努力や苦労について気付いている。（発言・シート）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人ではなくペアで活動させる。</li> </ul>		
ふりかえろう⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気付きや考えを交流することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最終発表会で自分たちの調べたことを発表し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成果と課題を見つめ直すために、実践してみて感じたことを全体で共有する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動を振り返り、成果と課題を考えている。（発言・シート）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の気付きについて関心をもって対応している。（発言・シート）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動を一緒に振り返る。</li> <li>・ これまでの学習を想起させる。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分たちの地域の防災や減災の心構えについて考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害があってもこの町に住み続ける人々の思いについて考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の人のインタビューの画像を見せることで、災害からどんな思いで復興したかその思いを想像させる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まちの人々のふるさとに対する思いを感じ取っている。（シート）</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体的な災害時の約束・減災の心構えについて考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の安全のためにこれからどうするか、町に住み続けるためにどんな事を心がけていけばよいかを考える。</li> <li>・ 見学先の人に報告を兼ねて学んだことを手紙に書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全に避難するための心構えや、家族との約束事などを確認させる。</li> <li>・ 活動の成果と課題を生かすために、今後の自分たちの心構えを話し合わせる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成果と課題を踏まえ、今後の防災に対する心構えを考えている。（発言・シート）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学んできたことを今後の生活に生かそうとしている。（シート）</li> </ul>			

6-15

6 本時の実際 (12/20時間)

(1) ねらい

調べたことを持ち寄り、自分たちの防災マップを作ることができる。

(2) 学習の実際

段階	学 習 活 動	予想される子どもの姿	形態	○教師の支援 ●つまづいている子への手立て ☆評価(方法)【観点】
導入	1 これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。		全体	○学習の見通しがもてるように、これまでの流れが確認できる場を体育館に設置する。
調べたことをもとに、自分たちの防災マップを作ろう。				
展開	2 地域別グループに分かれて、調べたことをもとに地図に記入する。  (記入するポイント) ①火山活動について ②土砂災害について ③大雨や暴風雪について ④熊の被害について ⑤地震について 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>田沢地区は、山が多いなあ。</li> <li>ここは、火砕流が流れる危険があるよ。</li> <li>熊の出没があったところはこのあたり。</li> <li>昔、洪水があつて被害があつた場所だよ。</li> <li>土砂崩れで、逃げ遅れた人もいたそうだよ。</li> </ul>	グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時のめあてと学習の流れが確認できるように説明する。(T f)</li> <li>○地域別の地図を用意し、作業の効率がよくなるようにシールやマーカーを準備する。</li> <li>○地域全体の地形や位置関係がわかるように航空写真を提示する。(T k)</li> <li>●全員が話し合いに参加できるように、(グループのリーダーには)話し合いは全員の意見を聞くことの大切さを事前指導しておく。(T f・T k)</li> <li>○地域別のマップ作成中は、分担して子どもの様子を見取る。(T f・T k)</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆調べたことを紹介しながら、マップ作りをしている。【課題探究力】 (マップ作成・発表の様子)</p> </div>
	3 全体でマップ作りのポイントについて確認する。		全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生保内小学校の友達や家族にも伝えられるようなわかりやすいマップにするためにどうしたらよいのかを考えさせる。</li> <li>○災害ポイントだけでなく、地域の公民館などの安全な避難場所についても考えさせる。(T f)</li> </ul>
	4 新たに気付いたことやわかりやすい表記を考えてマップを完成させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>この場所の写真もあるといいね。</li> <li>近くの目印になるものを見つけよう。</li> <li>簡単な説明も加えよう。</li> <li>この辺りに友達の家はなかったかな？</li> </ul>	グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●見学場所の写真や資料が使えるコーナーを示唆する。(T f・T k)</li> </ul>
まとめ	5 本時の振り返りをして次時への見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の調べてきたことを知ることができて、いろいろな災害の起こり方に気付いた。</li> <li>友達の意見で気付かされたことがあり、よかった。</li> <li>他のグループのマップと合わせてみたら、町全体の危険箇所や避難場所がわかると思う。</li> </ul>	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○マップ作りを通して、どのような課題に気付いたのかを全体で共有させる。(T f・T k)</li> <li>○次時の新たな課題についてさらに深めていくことを確認する。(T f)</li> </ul>

(3) 本時の視点

①子どもが主体的にかかわるために

自分が調べたことを持ち寄って、地域別の白地図に記入することは、子どもが主体的にかかわるために有効であったか。

②子どもが考えを深め、表現するために

自分たちの作成しているマップについて、互いに疑問や感想を伝え合ったことは、考えを深めることに有効であったか。(作成方法や意見交換の方法など)

## **3 校時 提示授業**

～ 2 年 ・ 4 年 ・ 6 年 ～

## 第2学年 生活科学習指導案

指導者 T 1 鎌田 真寿美  
T 2 三浦 祐太

### 1 単元名

もっと なかよし まちたんけん ～おぼない 大すき～

### 2 単元の目標

- ・ まち探検などでかかわった人々や場所に関心を持ち、それらに繰り返しかかわり、親しみや愛着をもって、話したり、一緒に活動したりしようとする。  
【生活への関心・意欲・態度】
- ・ 地域で生活したり働いたりしている人々や場所とのかかわりについて自分なりに考え、それを素直に表現している。  
【活動や体験についての思考・表現】
- ・ 地域で生活したり、働いたりしている人々の地域への思いや、自分たちの生活とのかかわりに気付くことができる。また、自分たちの暮らす地域のよさや、人々と適切に接することができるようになった自分たちのよさに気付くことができる。  
【身近な環境や自分についての気付き】

### 3 単元を展開するにあたって

#### (1) 児童について（男子16名・女子15名、計31名）

生活科は、特別支援学級（情緒）の子ども1名（竹組男子）も一緒に学習している。明るく素直で、どのような活動にも一生懸命に取り組もうとする子どもたちである。特に生活科が大好きで、探検したり発見したりすることや育てたり観察したりすることなどを楽しんでやってきた。

6月には、初めてのまち探検に出かけ大興奮で学校に帰ってきた。行ってみたい場所をもとにチームに分かれ、それぞれ3ヶ所ずつ訪問してきた。日常生活では、なかなか見られない場所や物を見ることができ、どの子どもも目をキラキラさせ「また、まち探検に行きたい!」と話していた。しかし、その一方、初めて会う人や慣れない場所であったためか、思うようにインタビューできなかつたり、「恥ずかしい」「緊張する」と、なかなか話しかけることのできない子どもも見られた。探検後の発表会では、互いの発表に関心をもって伝え合うことができた。自由に発表の方法を考え、意欲的に準備したが、集めてきた素材から適切なものを選んだり、それを分かりやすく伝えたりすることについては課題が残った。

まち探検に関して、探検地区周辺に住んでいる子どもは8人で、田沢湖畔の2人や田沢地区の2人などかなり離れた場所から通学している子どももいるが、探検地区には田沢湖駅やスーパー、病院や薬局などが集中していることから子どもたちにとっては馴染みのある場所であるといえる。

6月のまち探検前と探検後にアンケートをとった結果、次のような変容が見られた。

#### ① 生保内のまちにはどんな店や建物がありますか？ ※平均回答数；4個→8個

1位	ビフレ	29人	<b>珍楽飯店</b>	25人
2位	グランマート	24人	ビフレ	24人
3位	ツルハ	24人	<b>三浦商店</b>	21人
4位	コンビニ	17人	グランマート	21人
5位	コメリ	7人	<b>ダルマヤ</b>	19人
			ツルハ	19人
その他	ガソリンスタンド, 病院, 銀行			<b>まさき菓子店, 田沢湖市, 田沢モータース</b>

#### ② あなたが、生保内のまちで好きな場所はどこですか？ [◎…多数 ○…少数]

##### ◆探検前 ※無回答は2人

- ◎生保内公園・グラウンド（理由：遊べる、サッカーができる）
- ◎ビフレ・グランマート・ツルハ・コンビニ

- (理由：おいしいものがいっぱい、お菓子が売っている、おもちゃ・本がある)
- 田沢湖駅 (理由：新幹線や電車が走っている)
  - 田沢湖 (理由：きれい)
  - ローソン (理由：家族が働いている)
  - 病院 (理由：ママが働いているし、病気になった人を助けるからかっこいい)
  - 田沢モータース (理由：ガソリンを入れに行くと、やさしく声をかけてくれる)
  - グランマート (理由：やさしいレジの人がいる)

- ◆探検後 ※無回答なし
- ◎まさき菓子店 (理由：おいしいケーキを作ってくれるから)
  - ◎三浦商店 (理由：大きな冷蔵庫がすごかったから、お魚がたくさんあるから)
  - 珍来飯店 (理由：いろんな食べ物があるから、ラーメンやチャーハンがおいしい)
  - 田沢湖市 (理由：いろいろ教えてもらったから、いろいろなお土産があるから)
  - 盛屋精肉店 (理由：お肉やおかずをいっぱい売っているから)
  - ピープル (理由：お店の人が明るいから、コップがたくさんあったから)
  - ビフレ (理由：いろんな物を売っている、食べ物がいっぱいあるから)
  - ローソン (理由：家族が働いている)

③あなたは、生保内のまちをどう思いますか？

探検前	いいまち 楽しいまち きれいなまち 安心安全なまち 自然がたくさん やさしい人がたくさんいて、いいまち
探検後	やさしいまち (いろんな人が挨拶してくれる、やさしい人がいっぱい) 楽しいまち (いろいろなお店・いろいろなお店がある) 明るくてきれいなまち 豊かなまち (おいしいものがいっぱい) きれいなまち (田沢湖駅、駅前の噴水、まちの人がきれいにしている)

ほとんどの家庭が大型店やコンビニエンスストアを多く利用しているため、どちらのアンケートにも「ビフレ・グランマート・ツルハ」が上位であったが、まち探検により、地元の商店名が増えたことが分かる。好きな場所では、上位に訪問先が並んだ。19人がまち探検で行った場所を好きと回答していた。

また、生保内のまちについての記述には、「人」に関するものが増え、31人中14人が「まちの人がやさしい」と記述した。まち探検で親切にしてもらったことが、子どもたちの心に印象深く残っていることが感じられた。

## (2) 単元について

本単元は、内容(3)「自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。」を受けて設定した。

「もっとなかよしまちたんけん」は、6月の「どきどきわくわくまちたんけん」の経験を生かしながら、地域に暮らす「人」とのかかわりに焦点を当て、さらに自分とのかかわりを深めていく単元である。1回目の探検でうまくいかなかったことやもっとやりたかったことに挑戦することができるとともに、「訪問先の地域の人とまた会える」という楽しみやその人と話したい、聞きたいという気持ちが高まることをねらう。

同じ場所を訪れ、同じ人と繰り返ししかかわることにより、これまでとは違った気付きや発見を通して、自分とのかかわりを見つめ直すことが期待できる。また、地域の方々とかかわり方や道路を歩く時の交通ルール、訪問時のマナーなどについても再度確認しながら活動することで、安全に生活する態度を養うことができる。

### (3) 指導にあたって

本校の研究主題『自ら課題をもち、すすんで学ぼうとする子どもの育成』～かかわり合いを通して学びを深めていく指導を通して～」を実現するために、本単元では3つの重点について次の手立てを講じる。

#### ①自分の思いや考えを引き出すために

探検前の計画を立てる際、気持ちを高めるために探検の中で、会いたい人ややりたいことを明確にし、子ども一人一人の考えを十分引き出すようにする。実際の探検では、見たことや気付いたことを子ども一人一人の五感を通して感じさせたい。また、探検での驚きや感動を、教室でも伝えられるよう、その時の気持ちをメモしてくるようにする。探検後の活動では、探検での驚きや感動を再現できるように、それらをカードにし、チームで集約しておく。そして、それらをもとに考えられるようにする。

#### ②「話す力」や「聞く力」を育てるために

実際の場所やものが想起できるように、写真や絵、ペープサートなどを使って発表させる。発表を聞いた後には、必ず感想や質問をする時間を設定する。話し手と聞き手の双方向のやりとりができるように、どこがよかったのか、初めて知ったことは何か、よく分からなかったことはないかななどを発言したり、それに対して返答したりする場面を設定する。

#### ③「学びを生かそう」とする意欲を高めるために

目的意識をもって探検に臨むことができるようにするために、「生保内の大すきを発見してきてください。探検に行ってきたら、どんな大すきがあったか教えてくださいね。」と伝えておく。また、2回目のまち探検であることから、もっと知りたかったことやまた会いたい人とのかかわり、前回できなかったことへの再チャレンジなどを児童の思いや願いを十分引き出すようにする。さらに次の単元で、今回学んだことを使って何かできることやしたいことがないかを考える場面を設定する。

その他としては、生保内のまちに「お気に入りの場所」を見付け、「生保内が大すき」と言える子どもを育てたい。そのために、6月の単元のはじめには互いの交流を通して、「ぼくもそこを見てみたい。」「わたしも行ってみたい。」という気持ちを引き出すようにした。

本単元は、前回のまち探検をふまえ、「前の探検でうまくいかなかったこと・もっとやりたかったこと・聞いてみたかったこと」をたくさん語らせ、「もう1回行きたい、もう1回会いたい。」という気持ちを高めた上で、探検に臨ませたい。

また、実際の探検には、チーム毎の活動であること、校外での子どもたちの安全を確保することをふまえ、チームには1人以上の大人が同行することが必要である。そのため、2年部だけでなく、1回目の探検時と同様に地域の応援団の方々にも協力していただく。学習のねらいや活動の意義、子どもたちが主体的に学習するための配慮事項など、事前の打ち合わせを十分に行った上で協力していただき、充実した活動にしたい。

探検の際には、各グループに1台ずつタブレットを持たせ、子どもの視点での写真を記録として残すようにする。タブレットがあることで、さらに意欲が高まり、撮った写真は資料として使ったり分かりやすい発表のための材料になったりすることを伝え、丁寧に撮ってくるようにさせたい。しかし、撮影技術がまだ未熟であることや夢中になって写真を取り忘れることも考えられるので、大人も補助的に撮影しておくようにする。

教え合う活動では、撮ってきた写真や探検のメモをもとに、子どもたちの思いを大切にしながら交流させる。表現の技能として、どのような手法があったかを確かめながら、前回よりも分かりやすく、より思いが伝わるようにしたい。認め合い共有し合うことで、ふるさと生保内への愛着の気持ちを高めたい。

4 指導計画

(1) 評価規準

ア 生活への関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての思考・表現	ウ 身近な環境や自分についての気付き
・まち探検などがかかわった人々や場所に関心をもち、それらに繰り返しかかわり、親しみや愛着を持って、話したり、一緒に活動したりしようとしている。	・地域で生活したり働いたりしている人々や場所とのかかわりについて自分なりに考え、それを素直に表現している。	・地域で生活したり、働いたりしている人々の、地域への思いや、自分たちの生活とのかかわりに気付いている。 ・自分たちの暮らす地域のよさや、人々と適切に接することができるようになった自分たちのよさに気付いている。

(2) 単元の全体計画 (15時間扱い)

小単元	ねらい	主な学習活動	主な支援	評価規準と評価方法			努力を要する子への支援
				生活への関心・意欲・態度	生活や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き	
まちたんけんの計画を立てよう 【4時間】	・1回目のまち探検をふり返り、自分たちが行った場所の中から、もう一度会いたい人ややってみたいことなどを話し合い、探検の準備をすることができる。	・1回目のまち探検や、夏休みのご近所探検などで経験したことを伝え合う。 (1時間)  ・探検で行きたい場所や調べたいこと、会いたい人などを話し合い、探検チームを決める。 (1時間)  ・探検チームごとに、探検の計画を立て、準備をする。 (2時間)	・もっとやりたかったことや調べたかったことなどを引き出すために、1回目のまち探検をふり返りながら話すようにする。 ・夏休みの探検でやったことや分かってうれしかったことがたくさん出るように、探検新聞をもとに思い起こすようにする。  ・今回は、より深くかかわるため、探検場所を1ヶ所にしぼるようにする。  ・1回目でもっと調べたかったことや聞きたかったこと、もう1回見たいもの、可能であれば体験したいことなどの視点を示す。		・もう一度かかわりたい場所や人、いっしょにしてみたい活動を決めている。 (会話・行動観察)  ・もっと調べたいことを中心に、探検の計画を立てている。 (会話・計画表)	・夏休みの経験や1回目の探検をふり返って、もっと調べたいことややりたいたいことに気付いている。 (つぶやき・学習シート)	・会話をしながら、もう1回行ってみたい場所とその理由を引き出すようにする。  ・計画表の記入については、同じグループの児童のものを参考にして書かせるようにする。
まちたんけんにいこう 【4時間】	・探検の計画に沿って、チームで探検に出かけ、地域で生活している人や働いている人とかかわる中で、それらの人々が自分たちの生活とかかわっていることに気付き、地域の人々に親しみや愛着をもつことができる。	・探検チームごとにまち探検へ出かけ、地域の方と一緒に話したり活動したりする。 (2時間)  ・まち探検をふり返り、気付いたことや感想などをカードにかく。 (1時間)  ・探検チームで、カードを分類して大きな紙にまとめて貼る。 (1時間)	・応援団の方々に、学習のねらいをきちんと伝えた上で、協力して頂くようにする。また、訪問先とも事前に連絡を取り、協力を依頼しておく。 ・後で発表会をするため、なるべくたくさん写真を撮っておくように伝える。 ・調べて分かったことや気付いたこと、感じたことや思ったことなどを区別できるような色別のカードに書かせる。タブレットの写真も、資料として使えるようにする。  ・カードを分類しやすいように写真を準備する。同じ内容のものをまとめてから、紙に貼るように声をかける。	・地域の人に興味をもって探検に出かけ、進んでかかわろうとしている。 (観察・発言)  ・相手にや場に応じた適切な行動について考え、地域の人とかかわっている。 (観察・カード)		・地域で生活したり、働いたりしている人々の、地域への思いや、自分たちの生活とかかわりに気付いている。 (つぶやき・カード)	・途中ではぐれることがないよう、列の中ほどに並ばせるようにする。 ・適宜、計画表の行程を確かめながら見通しをもって行動できるようにする。 ・安全面については、計画表に記入したグループの約束を見て確かめ、次に進むようにする。 ・メモが必要な場面でも声をかけ、カードに書くよう促す。
はつぴょう会をしよう おほない大すき 【7時間】	・地域でかかわった人々のことをふり返り、自分たちの地域には、さまざまな人や場所がたくさんあることが分かり、地域への親しみや愛着をもつことができる。	・自分が伝えたいことから、発表の方法についてチーム内で話し合う。 (1時間)【本時】  ・チームで考えたことについて、試しの活動をする。 (4時間)  ・「おほない大すきはつぴょう会」を開く。 (1時間)  ・発表会の振り返りをし、生保内のまちへの気持ちを互いに伝え合う。 (1時間)	・どんな発表方法があったかをふり返り、その時の思いを思い起こしながら方法を選ぶようにする。チーム内で同じ人がいる場合は、相談しながら進めていくことを確認する。 ・試しの活動の中で、互いに感想や質問、アドバイスなどを述べ合うようにする。  ・保護者に発表を見てもらい、感想を述べてもらうようにする。よかった所や初めて知ったことなどをたくさん言ってもらえるよう、事前に依頼しておく。  ・自分たちのよさに気付くことができるよう、互いのよい所を見つけて発表するように声をかける。	・探検で見付けたことを分かりやすく伝えようとしている。 (準備の様子、学習シート)	・伝えたいことが伝わるような発表の方法を考えている。 (話し合いの様子) ・探検で見付けたことをみんなに分かりやすく伝えたり、感想を述べたりしている。 (発表・発言)	・他チームと発表を見合っ互いの良さや改善点に気付いている。 (発言・学習シート)	・チーム内で手伝ったり、アドバイスしたりしてもらえよう、働きかけよう。 ・何をやればよいか悩んでいる時には、同じ内容を発表しようとしている友だちと協力しながら進めるように声をかける。  ・自分で一番がんばった所はどこだったかについて一緒に考える。

5 本時の実際 (9 / 15 時間)

(1) ねらい

前時に作った探検のカードをもとにして、自分が伝えたいことをどうやって伝えるかを考えることができる。

(2) 学習の展開

段階	学習活動	予想される子どもの姿	形態	○教師の支援 ●つまずいている子への手立て ☆評価 (方法) 【観点】
つかむ	1 学習課題と学習の流れを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大すきなこと, 見つけてきたよ。</li> <li>・○○さんのことを発表したいな。</li> </ul>	全体	○見通しをもった学習活動ができるよう, 本時の流れと目標時間を示す。(T1)
おぼないの「大すき」を どうやって はっぴょうするか 考えよう。				
さぐる	2 どのような発表方法があったか, 振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵</li> <li>・写真</li> <li>・ペープサート</li> <li>・クイズ</li> <li>・劇</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洗車機がすごかったから, 動く様子を工夫して作ったんだよ。</li> <li>・魚がたくさんあったから, ペープサートでいっぱい作ったよ。</li> </ul>	全体	○前回のことを振り返ることができるように, 6月の探検発表で使ったものを見せるようにする (T1・T2で分担して, いくつか用意する)。 ○その時の思いを語らせるため, 「どうして, こんな風に作ったのか」を質問して答えてもらうようにする。
ふかめる	3 どのようにして発表するか考え, チームで確かめながら学習シートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今度は本物みたいに作りたいな。</li> <li>・○○さんのやさしいところを劇にして見せたいな。</li> <li>・同じことを発表するんだね。一緒にやろうよ。</li> </ul>	チーム	○「発表したいこと」「方法」「そのわけ」を記入できる学習シートを用意する。 ○T1・T2で, チームを半分ずつ担当し補助にあたる。よい考えは, 大いに賞揚し, 自信をもたせる。 ●発表する内容を悩んでいる時には, 前時の自分のカードと一緒に確認する。同じ内容を選んでいる仲間がいれば, なるべく一緒に活動できるように声かけをする。
	4 決めたことをチーム毎に発表し, 互いの考えを共有する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なるほど, そういう考えもあるんだな。</li> <li>・楽しい発表会になりそう。</li> </ul>	全体	☆伝えたいことをもとにして, 発表方法を考えている。 (話し合いの様子・学習シート) 【思考・表現】
ふり返る	5 今日の振り返りを学習シートに書き, 発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方法が決まってよかった。</li> <li>・早く準備したいな。</li> </ul>	個↓全体	○T1・T2でよい記述を見取り, 発表者を相談しておく。 ●書きやすいよう, 本人ががんばっていたことを言葉で伝える。
	6 本時のがんばりを賞揚し, 次時の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いい発表にできるように, がんばろう。</li> </ul>	全体	○発表会準備の意欲となるようT1・T2で見取ったことをそれぞれ補足して, 児童のがんばりを賞揚する。

(3) 本時の視点

①子どもが思いや願いをもってかかわるために

前回, 発表した時の気持ちを思い起こさせるために, その時に使った小物やペープサートなどを見せたが, どうだったか。

②子どもが考えを深め, 表現するために

今回のまち探検で体験してきたことや感想などをカードにし, チームで見合うことができるようにしておいたが, どうだったか?



## 第4学年 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 山部 幸信

### 1 単元名

ふるさとの今を見つめて ～発信しよう！ふるさとのよいところ～

### 2 単元の目標と育てたい力

ふるさどについて関心をもち、自ら課題を見付け、調べる・まとめる・発信する活動を通して、ふるさとのよさを発信・表現するために必要な知識や技能や人々とのかかわり方を身に付けるとともに、ふるさどに対する誇りと愛情を高め、地域を盛り上げようとする態度を育てる。

#### 【課題設定力】

- 生活や体験を通して気付いたことや疑問に思ったことをもとに、調べてみたいことを見付け、課題を設定する。

#### 【課題探究力】

- 課題解決の見通しをもち、学習計画を立てる。
- 対象や目的に合わせて情報収集をし、集めた情報を比較したり関連付けたりしながら考える。

#### 【表現・伝達能力】

- 分かったことや学んだこと、自分の思いや考えを、相手や目的に応じて表現する方法を工夫し、まとめたり伝えたりする。

#### 【自己形成力】

- 学んだことを自分の生活や行動と結び付けて生かそうとする。
- 学んだことをもとに成果と課題を振り返り、これからの自分を高めようとする。
- 自分と地域とのつながりに気付き、地域を大切にしようとする。

#### 【学び合う力】

- 相手の立場や気持ちを考え、他者と協力して課題を解決する。
- 自分や友達のよさや考え方の違いに気付き、自分のものの見方や考え方に気付く。
- 体験や活動対象に積極的にかかわり、話を聞いたり意見を述べたりする。

### 3 単元を展開するにあたって

#### (1) 児童について（男子14名・女子18名、計32名）

明るく素直で元気のよい学級である。当番活動や係活動では、進んで行動し、アイデアを出してよりよくしていこうとすることができる子どもたちが多くいる。また、自分の仕事だけではなく、友達の手伝いも率先して行う姿も多く見られ、助け合ったり協力したりすることができる学級である。思考力や表現力の差が大きい面もあるが、みんなが参加したり発表したりすることで、みんなで学ぼうという意識は高くなってきている。総合的な学習の時間は、特別支援学級の子ども1名も支援を受けながら一緒に学習している。

3年生の総合的な学習では、「すてき発見！田沢湖」というテーマで自分たちが住んでいる田沢湖地区について調べてきた。活動を通して、子どもは意外にも田沢湖地区のことを知らないということと観光地であるという認識が低いということが見えてきた。しかし、調べたり見学したり話を聞いたりする活動を続けていく中で、田沢湖地区の素晴らしさに気付き、ふるさとのことをより好きになっていく姿が見られた。社会科で仙北市の学習をした際も角館地区・西木地区の知識は少なかったが、学習を進めていく中で角館地区・西木地区の様子を理解し、同じ仙北市として親しみを覚えたり誇りを感じたりする姿が見られた。また、調べてみたいテーマを各自が選択して課題追究を行い、最後は新聞・ポスター・パンフレットなどにまとめて友達同士で伝え合ったが、相手に分かりやすく伝えたり目的に応じて表現方法を工夫したりする力は不足している。これは社会科の新聞を書く活動等、日々の授業の様子からも感じられる部分である。そうした子どもの実態を踏まえて今回の単元を設定した。

## (2) 単元について

本単元は、3年生での学習につなげて、新たに発展させていくことができるものである。また、ふるさと仙北市についてより詳しく知ることができるよい機会でもある。地域の自然・文化・歴史・伝統、人々の取組などの素晴らしさを再発見することで、地域に親しみ、誇りと愛着をもって暮らしていこうとする思いがさらに育つものと考えられる。

単元の導入では、仙北市の観光客数の推移を示し、年々減少している現状から、自分たちも何かできることはないかと課題意識をもって活動させることで、将来はふるさと仙北市を担う人材に育ててほしいという期待を込めている。

また、「相手に分かりやすく伝えたり目的に応じて表現方法を工夫したりする力が不足している。」という子どもの実態を踏まえ、ふるさとのよさを「発信すること」を中心に据えて単元を進めていく。発信方法を子どもたち自身が考え、子どもの思いや願いを生かして興味・関心に沿って課題を追究していく。何度かの発表会を通して、友達や先輩、ゲストティーチャーのアドバイスをもとに新たな課題を発見する。そして、新たな課題についてまた追究していく。そして、実際に自分たちが考えた方法を実践してみる。そこで体験したことを生かして、さらに発信方法や内容を改善してまた実践してみる。活動の終末には、これまでの活動を振り返り、かかわった人々に感謝の気持ちを抱いたり、活動の成果と課題を出し合ったりし、今後の生活やこれからの学習にどう生かしていくかを考える。

単元にかかわる具体的な体験活動としては、生保内公園つつじ祭り、ふるさとクリーンアップ（田沢湖スキー場）、しいたけの植菌や収穫、玉川ダム交流会、宿泊体験学習（駒ヶ岳登山・田沢湖でカヌー等）、田沢湖マラソン、生保内節全国大会、秋田市でのあんべいいなチャーハン販売などの行事やイベントがある。また、ゲストティーチャーとの交流、あんべいいなチャーハンを製造しているランドクリエイトの工場見学、田沢湖駅前での調査活動などがある。

## (3) 指導にあたって

本校の研究主題「『自ら課題をもち、進んで学ぼうとする子どもの育成』～かかわり合いを通して学びを深めていく指導を通して～」を実現するために、本単元では3つの重点について次の手立てを講じる。

### ①自分の思いや考えを引き出すために

実際に体験したり実践したりする活動を行い、様々な人たちやものとのかかわりをコーディネートする。また、調べる・考える・話し合う・見直す活動をスパイラルに繰り返す。

### ②「話す力」や「聞く力」を育てるために

調べたり考えたりしたことを話し合ったり、発表したりする活動を繰り返す。また、様々な人たちからアドバイスをもらったり話し合ったりすることや実際に考えた発信方法を実践できるようにコーディネートする。

### ③「学びを生かそう」とする意識を高めるために

3年生で調べたことやまとめたことを振り返ったり、昨年度の先輩の取組を紹介したりする。

自分たちが考え出した発信方法を実践し、そこで得た経験から改善し、改めてまた実践するという活動を繰り返す。発信した相手の反応をアンケートなどで集め、子どもに紹介する。

指導にあたり、子ども同士で随時計画を見直し、考えを深め、実践していけるように教師がコーディネート役を務めることを重視したい。また、新たな問いを見出しながら探究の過程がスパイラルに高まっていくことができるように、学びのプロセスを繰り返し設定したい。

単元の課題をつくる際には、昨年の学習経験を振り返ったり、仙北市の観光客数の推移を示したりすることで、「3年生の時に調べたことを生かして、もっと多くの人に広めたい。」「『ふるさと』を社会科で習った仙北市全体に広げてみよう。」「もっとふるさとのよさを発信して

仙北市に来る観光客を増やしたい。」などの課題意識をもたせたい。課題解決に向けて学習計画を立てるが、学習計画は随時見直していくことで課題を深く探究する力を付けさせたい。調べ活動では、課題解決に向けて、インターネットや本で調べるだけでなく、ゲストティーチャーや見学や体験といった方法があることにも気付かせたい。また、発信方法については、子どもの発想を生かすために、出てきたアイデアを分類整理し、興味・関心別のグループに分かれて活動していく。また、活動を進めていく中で、子どもだけでは実行に移すことが困難なことにも気付くと思われる。そうした子どもの気付きを生かせるように、生小応援団（地域運営体・神代活性化協議会等）、田沢湖観光協会、仙北市役所などの様々な方々の協力を仰げるように教師がコーディネートをしていく。このようにして様々な人たちの意見や力も借りることで、実現できることは実現させたい。たとえ実現できないことがあっても、後々何らかの形で生かされる場面はきっとあるので、「実現できない」イコール「無駄」ではないことにも気付かせたい。また、発信方法だけの面白さに目が行き、発信する内容が中身の無いものにならないように、体験活動も取り入れながら実感が伴い、思いがこもった内容となるようにさせたい。

本時は、これまでの活動を振り返り、成果と課題を話し合い、今後の展望について考える単元の終末となる。仙北市をPRするために様々な活動をしてきたが、この学習で終わりではなく、今後、仙北市民として生涯に渡り続いていくものとしていきたい。成果と課題を振り返る際の視点としては、「多くの人に伝わったか。」「自分たちでできたか。」「仙北市のよさが伝わったか。」などである。また、これまでかかわって下さったゲストティーチャーの方々の話やPRを聞いた人達の感想などから、自分たちが仙北市を担っていく人材であることにも気付き、活動を価値付けて今後の意欲にもつなげていきたい。

#### 4 単元の評価規準

学習方法に関すること			自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
【課題設定力】	【課題探究力】	【表現・伝達能力】	【自己形成力】	【学び合う力】
<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項や生活体験を生かして課題を設定している。</li> <li>友達やゲストティーチャーの意見から、新たな課題について設定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習計画を考えた後、必要な情報を選んだりしている。</li> <li>発信方法について考え、意見を出している。</li> <li>友達の意見等から、次の課題に気付き、改善策を出している。</li> <li>単元のねらいは達成できたのか振り返っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発信方法について具体的に考え、相手に分かりやすく伝えている。</li> <li>協力してくれた人に感謝の気持ちを伝えたり、学んだことをまとめたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な情報を意欲的に探したり、これまでの取組の努力に気付いたりしている。</li> <li>達成感を感じて自己評価したり、学んできたことを今後の生活に生かそうとしたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と協力して課題解決に向けて調べたり話し合ったりしている。</li> <li>他グループのよさや改善点に気付いたり、改善策を話し合ったりしている。</li> <li>進んで宣伝活動をしたり、人とかわる喜びや難しさを実感したりしている。</li> </ul>

5 指導計画 (40時間扱い)

	ねらい	主な学習活動	教師の支援	育てたい力の評価規準(評価方法)					努力を要する子への支援
				課題設定力	課題探究力	表現・伝達能力	自己形成力	学び合う力	
課題を見つつけよう⑤	・既習事項や昨年度の活動を生かしながら課題を設定することができる。	・昨年の活動の様子を聞いたり、3年生時の活動を振り返ったりすることができる。(2時間)	・課題意識をもてるように、昨年度の4年生の活動を紹介したり、仙北市の観光客数の推移を示したりする。	・既習事項を生かし、課題を設定している。(シート)					・昨年の例を参考にさせる。
	・課題解決に向け、学習計画を立てることができる。	・学習計画を立てる。(2時間)	・課題を実現するための計画が立てられるよう、計画表の形式を示す。計画は随時修正が可能であることを伝える。		・課題を解決するための計画を立てている。(シート)				・学習の進め方を示す。
	・ふるさとのおよさを広めるためにどんな発信方法があるか考えることができる。	・発信するイメージを広げる。(1時間)	・イメージを広げさせるために、自由にどんな方法でもよいことを伝える。			・どんな発信方法があるのか考えている。(シート)			・昨年の例を示す。
もっと知りたい・伝えたい⑥	・友達とともに課題解決に向けて調べ活動に取り組み、必要な情報を意欲的に探すことができる。	・仙北市の自慢や発信方法について調べる。(7時間) ※連続した時間ではなく随時必要に応じて行う。	・分かりやすいホームページを紹介したり、パンフレットを準備したりする。 ・考える手がかりとするため、田沢湖駅周辺での調査活動を計画する。		・調べたことから必要な情報をシートに書いている。(シート)		・必要な情報を意欲的に探している。(観察・シート)	・友達とともに課題解決に向けて調べ活動をしている。(観察)	・分かりやすい情報を示す。
	・ふるさとのおよいところをより多くの人達に広めるための発信方法について考えることができる。	・調べたことを発信する方法を考える。(1時間)	・後で類型化しやすいように、思いついたものはどんどん付箋に書かせる。		・発信方法について考えている。(付箋・シート)				・前に出た友達の意見を参考にさせる。
自分が選んだ発信方法について具体的に考えたり、他グループのよさや改善点に気付いたりできる⑦	・たくさん出た発信方法を類型化するための意見を出すことができる。	・出てきた発信方法を類型化していく。(1時間)	・類型化しやすいように付箋を用いる。		・類型化について意見を出している。(発言)				
	・自分が選んだ発信方法について具体的に考えたり、他グループのよさや改善点に気付いたりできる。	・類型化した発信方法ごとにグループ分けをして具体的に考えていく。(3時間)	・考えの手助けとなる資料(パンフレット、ホームページ)を提示する。 ・子どもの意欲を生かすためにやってみよう方法ごとにグループ分けをする。			・発信方法について具体的に考えている。(発言・シート)		・他グループの発表のよさや改善点に気付いている。(シート)	・同じグループの子どもの意見を参考にさせる。
	・友達のアドバイスをもとに、次の課題に気付くことができる。	・1回目の発表会を行う。(1時間)	・自分たちの発信方法のよい点や改善点に気付く、次の課題を発見することができるように、質問やアドバイスの視点を示す。		・友達のアドバイスから、次の課題に気付いている。(発言・シート)				
	・多くの人達に伝わる、よりよい発信方法になるように意見を出すことができる。	・アドバイスをもとに発信方法を再度話し合う。(1時間)	・よりよい発信方法になるように、前時の友達のアドバイスを基にするよう声をかけたり、改善する視点を与えたりする。		・よりよい発信方法になるように意見を出している。(発言・シート)				
	・友達や先輩のアドバイスをもとに改善した内容を分かりやすく発表することができる。	・2回目の発表会を行う。(1時間)	・5年部と連絡調整をする。 ・全校児童にも休み時間等に掲示物を見てもらい意見を付箋で貼ってもらう。			・改善した内容を分かりやすく発表している。(発言・シート)	・5年児童のアドバイスを生かして考えている。(シート)		
	・新たな課題を見出したり、さらに改善しようとゲストティーチャーに質問をしたりできる。	・ゲストティーチャーを招いて中間発表会を行う。(2時間)	・子どもの考えがよりよくなるために、ゲストティーチャーと学習内容の連絡を取り合い、アドバイスをしてもらう。	・新たな課題を見出している。(発言・シート)				・さらに改善しようとする質問をしている。(発言)	・話を聞く際の視点を示す。
	・考えた発信方法を具体的な形に表すことができる。	・発信方法を具体化する。(5時間)	・これまで考えてきたことを具体的に表すために、ゲストティーチャーからのアドバイスなどを想起させる。			・考えた方法を具体的な形に表している。(シート)			・これまでのアドバイスを想起させる。
	・考えた発信方法を実践し、改善することができる。	・具体化した方法を実践し、改善する。(3時間)	・具体化した方法を実践することができるように、場の設定をする。			・考えた発信方法を実践している。(観察)			・一人ではなくペアで活動させる。
伝えよう・体験しよう⑧	・見学を通して、これまでの努力に気付くことができる。	・「あんべいいなチャーハン」の誕生について話を聞いたり、作っている工場を見学したりする。(2時間)	・実際に売っている商品についてより詳しい説明ができるように、ゲストティーチャーから話してもらったり、工場見学をさせたりする。		・話を聞いたり、見学をしたりしたことを生かしている。(シート)	・これまでの努力に気付いている。(発言・シート)		・話を聞く際の視点を示す。	
	・自分から進んで声をかけ、ふるさとのよいところを相手にわかりやすく伝えることができる。	・秋田市アゴラ広場でふるさとのよさを発信する。(あんべいいなチャーハン販売活動。)(2時間)	・相手に伝わるように、これまで学んできたことを思い出させる。 ・失礼のないように、礼儀やマナーの指導をする。		・相手にわかりやすく伝えている。(行動観察)		・自分から進んで活動をしている。(行動観察)	・一人ではなくペアで活動させる。	
ふりかえろう⑨	・活動を振り返り、成果と課題を考えたり、人とかかわる喜びや難しさに気付いたりできる。	・これまでの学習を通して、気付いたことやわかったことなどをまとめる。(2時間)	・成果と課題を見つめ直させるために、実践してみて感じたことを全体で共有化する。		・活動を振り返り、成果と課題を考えている。(発言・シート)		・人とかかわる喜びや難しさに気付いている。(シート)	・活動を一緒に振り返る。	
	・協力してくれた人に感謝の気持ちを手紙で表したり、達成感を感じて自己評価したりできる。	・お世話になった人達に感謝の気持ちを届ける。(2時間)	・多くの人の協力があったこと、自分の頑張りや協力することの大切さを振り返るために手紙を書かせる。		・協力してくれた人に感謝の気持ちを書いている。(手紙)	・達成感を感じて自己評価している。(シート)		・これまでの学習を想起させる。	
	・これまでの活動の成果や課題を話し合い、単元のねらいは達成できたのか振り返ることができる。	・単元全体の成果や課題を話し合い、単元のねらいは達成できたのかを一人一人が振り返る。(2時間)【本時1/2】	・成果と課題を振り返る際の視点を示す。 ・これまでの活動を価値付けるために、市長のビデオレターを紹介する。		・単元のねらいは達成できたかを振り返っている。(発言・シート)		・学んできたことを今後の生活に生かそうとしている。(シート)		

## 6 本時の実際（39/40時間）

### （1）ねらい

これまでの活動の成果や課題を話し合い、単元のねらいは達成できたのか振り返ることができる。

### （2）学習の展開

段階	学 習 活 動	予想される子どもの姿	形態	○教師の支援 ●つまづいている子への手立て ☆評価（方法）【観点】
導入	1 これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	・5つのグループに分かれて仙北市をPRするために頑張った。	全体	○学習の振り返りができるように、これまでの流れが確認できる場をいぬわしルームに常設する。
これまでの学習の成果（上手くいったこと）や課題（上手くいかなかった）を話し合い、ねらい（ふるさとのよさを広めること）が達成できたかをふりかえろう。				
展開	2 グループで成果や課題を話し合う。 ①デザイングループ ②販売グループ ③商品開発グループ ④キャラクターグループ ⑤メディアグループ	・パンフレットは多くの人に伝わったと思う。 ・キャラクターを使ってもっとPRする方法があったかも…。 ・メディアでPRすることは難しかった。 ・クッキーを作ったことは仙北市をPRすることにつながった。	グループ	○成果と課題を振り返る際の視点として「多くの人に伝わったか」「自分たちでできたか」「仙北市のよさが伝わったか」を示す。 ○様々な視点から考えるため、ゲストティーチャーも話し合いに参加してもらおう。 ●みんなが話し合いに参加できるように、全員の意見を聞くことが大切であることを伝える。 ○相手意識をもつために、PRを聞いた人達の感想を前もって掲示しておく。
	3 話し合ったことをグループごとに発表する。	・○○グループでは、○○を頑張りました。○○はもう少し工夫すればよかったと思います。	全体	○グループからの発表は要点のみ話すように指示する。
	4 個人での単元の振り返りをする。	・始めは上手くいくと思ったけど、すごく大変だった。 ・上手くいくか不安だったけど、聞いてくれた人が仙北市のよさをわかってくれてよかった。	個人	○単元を通して、個人の変容が分かるように、シートに振り返らせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     ☆単元のねらいを達成できたかの振り返りをシートに書いている。                      （シート）【課題探究力】                 </div>
まとめ	5 振り返りをする。	・ゲストティーチャーの人達がたくさん協力してくれて嬉しかった。 ・これからも仙北市を盛り上げていきたい。	全体	○今後も仙北市民として地元を盛り上げていく気持ちが継続するように、子どもたちの頑張りをゲストティーチャーと共に大いに称賛する。 ○これまでの活動を価値付けるために、市長のビデオレターを紹介する。

### （3）本時の視点

#### ①主体的に活動にかかわるために

自分が興味・関心のある内容別にグループ分けをして活動を続けたことは、子どもが思いや願いをもってかかわるために有効であったか。

#### ②子どもが考えを深め、表現するために

ゲストティーチャーと共に話し合ったり、PRを聞いた人達の感想を聞いたりしたことは、子どもが考えを深めることに有効であったか。

## 第6学年 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 T f 藤原 薫  
T i 伊藤 和恵

### 1 単元名

ふるさと再発見 パートⅡ ～ふるさとを元気にしよう！～

### 2 単元の目標と育てたい力

自分の住む地域（仙北市）についてこれまで調べてきたことを見直す活動を通して、課題を解決するための知識や技能を身に付けるとともに、ふるさとに対する考えを見つめ直し、地域の発展を目指して、積極的に地域にかかわろうとする態度を育てる。

#### 【課題設定力】

- 地域について調べ、発信する活動を通して気付いたことや疑問に思ったことをもとに課題を設定する。

#### 【課題探究力】

- 課題解決の方法や手順を考え、学習計画を立てる。
- 集めた情報を整理・分析し、地域の現状と関連付けながら考える。

#### 【表現・伝達能力】

- 分かったことや学んだこと、自分の思いや考えを、相手や目的に応じて表現する方法を工夫し、まとめたり伝えたりする。

#### 【自己形成力】

- 学んだことを自分の将来や生き方と結び付けて捉え、進んで生かそうとする。
- 自分と地域とのかかわりを考え、地域に対する誇りをもつ。

#### 【学び合う力】

- 相手の意見を受け入れ、生かし合いながら、他者と協力して課題を解決する。
- 自分や友達のおよさや考え方の違いに気づき、自分のものの見方や考え方を深める。

### 3 単元を展開するにあたって

#### (1) 児童について（男子18名・女子17名、計35名）

子どもたちは、いぬわしタイムの目標「ふるさとのよさがわかり、ふるさとが大好きな子ども」のもと、3年生からふるさと仙北市についての学びを積み重ねてきた。

3年生では、「すてき発見、田沢湖！」を学年テーマとし、田沢湖でのフィールドワークなどを通して身近な地域のよさを調べる活動を行った。4年生では、調査範囲を田沢湖生保内地区全域に広げ、「ふるさとの自然を見つめて」を学年テーマとして調査活動を行った。発展となる「発信しようふるさとのよいところ」では、これまで追究してきた地域のよさを広く発信しようと、秋田市での宣伝活動を行った。5年生では、「お米探検隊」という学年テーマを設定し、社会科「わたしたちの生活と食糧生産」と関連させながら、地域農家の工夫や努力について調査した。米作り体験を行うことで収穫の喜びを実感することができたが、地域の農業問題にも気づき、ふるさとの抱える課題へ意識が向くきっかけとなった。「わたしたちの山駒ヶ岳」では地域の自然災害について課題をもち、秋田駒ヶ岳砂防探検隊や仙北市防災の集いへの参加を通して防災の在り方を追究した。6年生では、学年テーマを「ふるさと再発見パートⅠ」とし、「震災からの復興とまちの発展の様子から学ぼう」という課題をもって仙台・松島への修学旅行を実施した。旅行後には、「仙台・松島と仙北市の共通点や相違点」「仙台・松島のまちづくりから学んだことを、仙北市の発展のためにどのように生かすか。」「仙北市の発展のために自分が取り組んでいきたいこと」等を視点として報告書作りを行った。また、国語科の学習と関連させながら、「仙北市で暮らす方が仙台市で暮らすより幸せか。」を論点として討論会を行った。こうした学びを通して、児童は田沢湖生保内地区の現状に気づき、ふるさとの発展のためにできることをしていこうという意欲が高まってきている。資質・能力の面から見ると、課題設定力、探究力、表現力は高まりつつあるが、集めた情報を整理・分析したり、学んだことを自分の将来や生き方と結び付けて捉えたりする力には課題がある。

#### (2) 単元について

6年生は、いぬわしタイムの小学校におけるゴールとなる学年である。そこで本単元は、これまでの探究を振り返る活動からスタートし、ふるさとについての理解がどれぐらい深まったかを確認する。そして、前学年までの課題解決を踏まえた上で、もっとよくふるさとのことを知り発信していくための課題設定を行う。ここには、田沢湖・生保内地区と仙台市・松島町との比較によって得られた、「自分の地域を外から見ると」という新たな視点が入ってくる。子どもたちはこれまで、観光客等の地域外への発信をどのように行っていくかを考えてきたが、本単元では、地域に暮らす人々へも目を向けていくことになる。そうすることで児童は、地域住民の意識を知るためにはどうしたらいいか、受け止めた思いや願いをどのように叶えていったらいいのかというように課題意識を高めていく。本単元は「いぬわしタイムのこれまでの成果を見直し地域を改めて見直すことで、ふるさとを再発見する」「『再発見したふるさと』の発展を目指して、自分たちができることを実践していく」というように、これまでの学びをスパイラルに高めていく時間となる。

(3) 指導にあたって

本校の研究主題『自ら課題をもち、進んで学ぼうとする子どもの育成』～かかわり合いを通して学びを深めていく指導を通して～」を実現するために、本単元では3つの重点について次の手立てを講じる。

①自分の思いや考えを引き出すために

アンケート調査を実施したり、保護者や地域住民と話し合ったりする機会を設定することで、地域に暮らす人々の思いや考えを受け止め、そこから新たな問題点を発見することができるようにする。

②「話す力」や「聞く力」を育てるために

子どもと共通理解を図りながら、話し合いの目的と視点を明確に設定する。また、話し合いの見通しをもつことができるように、学習シートの構成を工夫する。

③「学びを生かそう」とする意識を高めるために

これまでの調査結果等を掲示し、課題追究の資料として活用できるようにする。また、アンケート集計や発信に向けた表現活動を行うときには、算数、国語、社会など他教科での学びやこれまでの経験を生かしていくことができるよう助言していく。

単元の構成としては、パートIを行う際にオリエンテーションを行い、課題を「ふるさとの発展を目指して」と設定しているが、修学旅行を経験したことから、改めて課題確認のための活動を行う。3年生からの活動を振り返り、地域に貢献している喜びを感じ取らせる一方で、保護者とともに地域のよさを確かめる活動を行うことで、地域にはまだ知らないことが多くあることに気付かせ、「より広く深く地域のことを知りたい」という意識を高めていく。調査活動は夏季休業中に設定するが、個々の課題追究が円滑に行われるよう、計画づくりへの支援や保護者への働きかけを適切に行っていく。その後、地域の発展を目指した活動を展開していくのだが、ここで、夏休み前に学校で実施したアンケート結果やふるさとに関する統計資料をもとに、これまで漠然としていた発信対象を明確にするための時間を設定する。保護者や児童からは「ふるさとのことをよく知らない」「ふるさとの現状（人口減少・商店街の衰退等）を知りたい」といった意見が多く寄せられた。また、「秋田県民はふるさとに対する愛着度が他県より低い」といった統計資料を見ることで、これまで他市町村や観光客に向けていた児童の視線は、秋田県内へ、地域住民へと向けられていくであろう。そこで、地域の人々の思いを捉えるために、進路を考える段階に入った中学生や、家族、近所の方々を対象としてアンケートを実施する。児童は、アンケート項目を考えたり結果を分析したりする活動を通して、身近な人々の「地域を大切に思う気持ち」や「将来に対する不安」に気付いていくことであろう。それと平行して、住民が現在行っている、地方創世特区といった地域活性化に向けた取組についても調査していく。こうした活動を通して、児童は地域への理解を深め、地域を構成している住民の一人であるという自覚を強くすることであろう。その上で、改めて地域の発展のためにできることを考えていく。内容としては、「ふるさと再発見パートI」の課題づくりの際に「ふるさとのよさを伝える番組や動画などを作りたい」というアイデアへの賛同が多かったことから、共通実践として動画を使った発信を行っていく。身近な人々を対象として「ふるさとのよさを知ってほしい。安心して幸せを感じながら暮らしてほしい。」という願いをもって表現活動を工夫することで、児童は地域に対する誇りや愛着をさらに深めていくことであろう。

4 単元の評価規準

学習方法に関すること			自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
【課題設定力】	【課題探究力】	【表現・伝達能力】	【自己形成力】	【学び合う力】
<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項や生活体験を生かして課題を設定している。</li> <li>友達やゲストティーチャーの意見、アンケート結果等から、新たな課題について設定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習計画を考え、必要な情報を収集したり考察したりしている。</li> <li>発信方法について考え、意見を出している。</li> <li>友達の意見等から次の課題に気づき、改善策を出している。</li> <li>活動を振り返り、成果と課題から今後の展望を考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査内容を構成を工夫してまとめている。</li> <li>発信方法について具体的に考え、表現方法を工夫して伝えている。</li> <li>取組を振り返り、学んだことをまとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な情報を意欲的に探したり、これまでの取組の努力に気付いたりしている。</li> <li>達成感を感じて自己評価したり、学んできたことを今後の生活に生かそうとしたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と協力して課題解決に向けて調べたり話し合ったりしている。</li> <li>他グループのよさや改善点に気付いたり、改善策を話し合ったりしている。</li> <li>進んで調査や宣伝活動をしたり、人とかかわる喜びや難しさを実感したりしている。</li> </ul>

5 指導計画 (35時間扱い)

	ねらい	主な学習活動	教師の支援	育てたい力の評価規準(評価方法)					努力を要する子への支援
				課題設定力	課題探究力	表現・伝達能力	自己形成力	学び合う力	
課題を見つつけよう⑤	・ふるさとのよさについてさらに調べたいことを考え、自分の課題を設定することができる。	・3年生からの取組を振り返り、学年共通課題を確認した上で、個の課題を設定する。(3時間)	・地域に対する理解度を確保するために、イメージマップを用いて保護者と一緒に地域のよさを振り返る活動を行う。	・既習事項や生活体験を生かして課題を考えている。(発言・シート)		・どんなまともかたや発信方法があるか考えている。(発言・シート)			・昨年までの取組を想起させる。
	・課題解決に向けて見通しをもつことができる。	・個の課題解決に向けて見通しをもつ。(2時間)	・見通しをもって課題解決に取り組むことができるように、計画表を準備しアドバイスをを行う。 ・計画は随時修正が可能なことを伝える。		・課題解決の方法を考え、学習計画を立てている。(発言・シート)				・学習の進め方を示す。
もっと知りたい・伝えたい⑥	・意欲をもって調査活動を行い、情報を収集したり考察したりすることができる。	・個の課題解決を目指して、調査活動を行う。(夏季休業中)	・調査地への移動や、写真記録等、児童だけでは対応が難しい内容について保護者の協力が得られるよう事前に依頼する。			・必要な情報を収集したり考察したりしている。(シート)	・必要な情報を意欲的に探している。(観察・シート)		・分かりやすい情報を示す。
	・友達の調査内容のよさに気付き、感想を伝え合うことができる。	・調査報告会を行う。(2時間)	・友達の調査内容のよさに気付くことができるように、見取るための視点を提示する。			・調査内容を構成を工夫してまとめている。(シート)	・友達の調査内容のよさに気付いている。(シート)	・調査内容の優れている点を示す。	
	・アンケート結果や統計資料から問題点を見つけ、新たな課題について考えることができる。	・夏休み前に学校で実施したアンケート結果やふるさとについての統計資料をもとに、地域住民の意識を捉え、課題追究の在り方を確認、修正する。(2時間)	・学校で実施したアンケートの結果、統計資料「都道府県郷土愛ランキング(ブランド総合研究所)」を提示する。	・アンケート結果や統計資料から、新たな課題について考えている。(発言・シート)					・資料から分かることを具体的に示す。
	・地域住民の意識を捉えるために適切な質問内容を考えることができる。	・地域住民の意識を捉えるためにアンケートづくりを行い、実施する。(4時間)	・アンケートづくりの助けとなる資料を提示する。 ・地域住民の協力を得ることができるよう、依頼状を準備する。		・地域住民の意識を捉えるために適切な質問内容を考えている。(シート)			・進んで調査活動をしたり人とかかわる喜びや難しさを実感したりしている。(シート)	・何を知りたいたいかを提示する。
	・結果をまとめ、考察することができる。	・アンケートを回収し、結果をまとめて考察する。(2時間)	・調査結果を表やグラフにまとめることができるように、算数科の学習内容との関連を示す。		・結果から分かることを考えている。(発言・シート)				・数値の表す意味を示す。
	・地域の現状や取り組みに気付くことができる。	・仙北市の現状について、インターネットを使ったり、地域の方にインタビューしたりしながら調査する。(4時間)	・地域の現状や地方創世特区の取組について知ることができるよう、ゲストティーチャーを依頼する。		・必要な情報を収集している。(発言・シート)				・分かりやすい資料を提示する。
	・地域の発展のために自分たちができることを考えることができる。	・地域の発展のために自分たちができることを考え、共通実践内容(ふるさと元気アップムービーづくり)を設定する。(2時間)	・アンケート結果、仙北市の現状についての調査結果について話し合うことで、ふるさとのよさを発信する必要感と相手意識を明確にする。	・これまでの活動をもとにして、これから取り組んでいくことを考えている。(発言・シート)					・話し合いの流れを整理して提示する。
	・ふるさとのよさを伝えるための計画を立てることができる。	・単元のはじめに設定した課題毎にグループを作り、ムービー撮影の企画書をつくる。(3時間)【本時2/3】	・ムービーのコンセプトや制作の内容を明確にもつことができるように、企画書の構成を工夫する。		・よりよい発信方法になるように意見を出している。(発言・シート)			・友達と協力して課題解決に向けて活動をしている。(観察)	・ムービーづくりの流れを示す。
	・地域住民がふるさとのよさを実感するような内容を工夫することができる。	・企画書をもとに、ムービーづくりを行う。(4時間) ・「ふるさと元気アップムービー上映会」を行う。(2時間)	・タブレットで撮影して仕上がりを確認するとともに、他者の視点を加味していくことができるよう、グループ間で見合ったり、アドバイスを伝え合ったりする。 ・学校以外で、上映してもらうことができる場所はないか、児童とともに地域に呼びかける。		・考えた発信方法を具体的な形に表している。(観察・動画)			・他グループのよさや改善点に気付いたり、改善策を話し合ったりしている。(付箋・発言)	・動きやセリフについてアドバイスする。
	ふりかえろう⑤	・活動を振り返り、成果と課題をまとめることができる。	・これまでの学習を通して、気付いたことや分かったことなどをまとめる。(2時間)	・成果と課題を見つめ直させるために、実践して感じたことを全体で共有する。		・活動を振り返り、成果と課題を考えている。(発言・シート)			・人とかかわる喜びや難しさに気付いている。(シート)
・学んできたことを今後の生活に生かしていくことができる。		・地域の発展を目指してこれからどうするか考え、実践する。(3時間)	・活動の成果と課題を生かすために、今後の展望を話し合わせる。 ・3月に開催されるモーグルカップに向けての活動を考える。		・成果と課題を踏まえて、今後の展望を考えている。(発言・シート)	・学んできたことを今後の生活に生かそうとしている。(シート)			



## 6 本時の実際（23/35時間）

### (1) ねらい

自他の企画内容を比較検討し、ふるさとのよさを地域の人々に伝えるにはどうしたらよいかを考え、友達と協力し合って発信に向けての計画を立てることができる。

### (2) 学習の展開

段階	学 習 活 動	予想される子どもの姿	形態	○教師の支援 ●つまづいている子への手立て ☆評価（方法）【観点】
導入	1 これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	・地域を盛り上げるムービーを作ろう。	全体	○学習の見通しをもつことができるように、これまでの流れが確認できる場を常設する。
ふるさとを元気にしよう！ ～ふるさと元気アップムービーを作ろう。～				
展開	2 グループごとにムービー（仙北市のよさを伝える動画）づくりに向けて企画書作成を行う。 [ムービーグループ] ①田沢湖周辺観光 ②たつ子伝説 ③クニマス ④温泉 ⑤エネルギー・環境 農業・林業 (単元のはじめに設定した個の課題によってグループを構成する。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんな、どんなムービーを作ろうと思っているのかな。</li> <li>温泉のよさをよく知らない人に、乳頭温泉郷のお湯について知らせよう。</li> <li>ふるさとの将来が心配だなと思っている人を勇気付けたいな。</li> <li>たつ子伝説を劇にして紹介しようかな。</li> <li>工夫して米作りを行っている、JAの方々に出演をお願いしようかな。</li> </ul>	グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全員が自分の考えをもって企画書づくりに参画することができるように、前時に個々に企画書案を作る活動を行う。</li> <li>○コンセプトを確かにして考えを進めていくことができるように、企画書シートの構成を工夫する。</li> <li>○ムービーには、地域住民へ出演を依頼することで、ふるさとに暮らす人人のよさに気付いたりそのよさを広げたりすることができるようにする。</li> <li>○二人で分担してグループの活動状況を見取り、話し合いが活発に行われるように助言する。</li> <li>●みんなの考えのよさを拾い上げながら計画を進めることで、ムービーの内容が豊かになることを前時に指導しておく。</li> </ul>
	[企画書項目] ・だれに (どんな思いをもっている人に) ・どんな思いをもってもらいたい ↓ そのために ・ムービーのストーリーは ・地域の方への出演依頼は			☆自他の企画内容を比較検討し、よりよい発信になるように、意見を出している。 (発言・企画書)【課題探究力】 ☆友達と協力して計画を立てている。 (観察)【学び合う力】
	3 グループの企画書を紹介し合う。	・他のグループも様々なアイデアがあって面白い。	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループの企画の内容や工夫を紹介し合うことで、次時からの活動に生かすことができるようにする。</li> <li>○「だれに」「どんな思いをもってもらいたい」が明確になっているかみんな確認し合う。</li> </ul>
まとめ	4 本時の振り返りをし、次時への見通しをもつ。	・地域の人たちが元気になるムービーを作っていこう。	個 ↓ 全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動の意欲が高まるように、子どもたちのアイデアを称賛する。</li> <li>○次時は、企画書をもとに、アイデアスケッチを作ることを確認する。</li> </ul>

### (3) 本時の視点

#### ①子どもが主体的にかかわるために

企画書を持ち寄り、グループで検討する活動は、個々の主体的なかわりを促すために有効であったか。

#### ②子どもが考えを深め、表現するために

企画書シートの構成は、よりよい発信に向けて自分の考えを整理したり、グループの話し合いを活性化・焦点化させたりするために有効であったか。